

青年技術士交流実行委員会 五十周年記念誌

技術の継承と未来への警鐘

～先達に学ぶこと、後世に伝えること～



イラスト：井口慎也

2009年2月1日

(社) 日本技術士会 青年技術士交流実行委員会

中表紙

目次

50周年を迎えて	1
技術士会が青年技術士交流実行委員会に期待すること (社)日本技術士会 会長 高橋 修	2
第1章 黎明期の青年技術士懇談会(20周年まで)	4
1 青年技術士懇談会設立前史(20周年まで)	4
2 回想	6
私にとっての技術士資格(寄稿:垣見 恒男)	6
技術士活動と技術発展・地球人類発展(寄稿:広瀬 正尚)	8
3 第8期例会・活動記録まとめ -新しい技術士像を求めて-	9
4 技術士研修センター設立構想	11
5 インタビュー(青葉 堯)	15
第2章 展開期の青年技術士懇談会	22
1 主な活動	22
2 回想	23
技術者生命を救った資格「技術士」(寄稿:和久 昭正)	23
青年技術士懇談会の思い出(寄稿:水谷 敏彦)	24
第三者の立場という視点(寄稿:岡 孝夫)	25
代表幹事活動から見た技術士制度(寄稿:福田 遵)	26
技術士という資格と出会って(寄稿:石井 聡)	27
青年技術士懇談会の思い出(寄稿:渡辺 弘子)	28
第3章 産声をあげた青年技術士交流実行委員会	36
1 懇談会から実行委員会への橋渡し	36
活動の軌跡① 青技懇から実行委員会へ(寄稿:野村 貢)	38
活動の軌跡② 支部交流及び国際交流WGの歩み(寄稿:桜井 裕一)	40
2 回想	42
21期の活動とエピソード(寄稿:北尾 由之)	42
青年委員会活動の思い出と提言(寄稿:時合 健生)	43
3 インタビュー(小松 秀次)	44
資料編(年表)	54

50周年を迎えて

(社)日本技術士会内において青年技術士の組織ができて50年を迎えるにあたり、青年技術士懇談会および青年技術士交流実行委員会の歴代の代表幹事・委員長はじめ幹事・委員の方々、ならびに会員、事務局の方々に感謝申し上げます。

青年技術士懇談会および青年技術士交流実行委員会は青年を冠する組織であり、運営するスタッフには年齢制限があります。このような運営形態のもと、数年で総入れ替えとなるためか、形として残るものが受け継がれてきませんでした。

この度大きな節目の年を迎え、初めて青年技術士組織の軌跡をたどることになり、私たちは、先ず、代表幹事・委員長の名前を調べるところから着手するといった手探りでの50周年プロジェクトスタートとなりました。

準備を進めていく中で知ったことは、それぞれの時代に青年技術士は時代の先取りに挑戦し続け、怒ったり、悩んだりしながらも常に生き生きと頑張ってきたという歴史です。

これからも、青年技術士の組織はこの「青技懇魂」とでも言うべきものを引き継ぎ、新生を繰り返しながら今まで以上に自由闊達な活動を展開していくことと思います。

50周年記念誌を製作するにあたり、諸先輩方、事務局の皆様にも多大なる応援とご協力をいただきました。この場を借りて、改めて心から御礼申し上げます。

この記念誌は可能な限り収集した範囲での資料を基に作成しております。実際の活動を全て網羅しているものではなく、また誤りもあるかもしれませんが、ご容赦のほどお願いいたします。

これを機会に、新しい資料の提示などを皆様にお願ひし、次の記念誌で改定、追加させていただければ幸いです。

最後に青年技術士交流実行委員会の委員、担当委員、委員補佐の皆様、ご多忙の中50周年記念イベントの準備、50周年記念誌の製作と本当にありがとうございました。

皆様のご健康とご活躍を祈念しつつ、ご挨拶とさせていただきます。

青年技術士交流実行委員会委員長 田村 裕美

技術士会が青年技術士交流実行委員会に期待すること

(社) 日本技術士会 会長 高橋 修

青年技術士交流実行委員会(略称:青年委員会)がめでたく設立50周年を迎えました。誠におめでとうございます。歴代の委員長、副委員長、委員、委員補佐として青年委員会の活動とその発展に尽力された方々に、深く敬意を表すると同時に心からお祝いを申し上げます。

青年委員会は1959年7月に「青年技術士懇談会(略称:青技懇)」の名称のもと、40歳以下の日本技術士会会員をメンバーとし、技術士の横の連絡と親睦、業務上の協力を目的として発足しております。現在は、政策委員会を親委員会とする実行委員会として「本会の運営についての企画・立案に対する若手技術士層としての積極的な参画・協力、若手技術士向けを中心とした研鑽事業の企画・実施、各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化、若手技術士としての国際交流の実施を目的とし活動する」こととされております。

2000年に技術士法の改訂があり、技術士になるにはそれまで7年の実務経験が必要とされていたのが4年に短縮され、若手技術士が生まれやすくなりました。現在の技術士二次試験合格者の平均年齢は40歳程度ですが、近い将来これが35歳前後になるものと期待されます。実際、以前は30歳前後で試験に合格する人はまれでしたが、法改正後は30歳前後の技術士が続々と誕生しています。この意味において、青年委員会の活動も今後ますますその重要性を増すものと思います。日本技術士会が青年委員会に期待することとして、以下の3点を申し上げます。

一点目は、縦割りの技術部門ごとの部会に対して、部門を越えた横の連携を一層強化して欲しいことです。技術士としての連帯感をお互いが持つことにより、日本社会での技術士の社会的地位の向上に役立つと思います。部会長会議でも申し上げていることですが、複数部会の連携による部会活動、外部の関連学協会との共催による部会活動を増やすようお願いしております。技術が細分化、専門化している現状から、これらを統合し、社会に貢献する技術に発展させることが求められているからです。

2点目は、青年委員会活動を通して、若手技術士の会員化を進めていただきたいことです。修習技術者が早く技術士になれるよう支援すると同時に、非会員の若手技術士に輪を広げて入会を勧誘して欲しいと思います。日本技術士会も青年委員会の提案を取り込み、若手技術士にとり魅力ある活動を展開して行きたいと願っております。

3点目は、技術士会の国際活動の強化へ向けて、更に支援して欲しいことです。日本の技術には世界トップレベルのものが多くあります。この優れた技術を日本国内で活用することも勿論重要ですが、更に海外への技術移転に注力して行きたいと考えています。技術士の中にはすでに海外業務を通じて技術移転を実行している方も多いと思いますが、日本技術士会として技術士の海外業務をさらに支援してゆくことが重要と思います。青年委員会の今後のますますのご発展、ご活躍を祈念いたしまして、設立50周年に当たっての祝辞といたします。

第 1 章

黎明期の青年技術士懇談会

第1章 黎明期の青年技術士懇談会

1 青年技術士懇談会設立前史（20周年まで）

1959年(昭和34)7月8日、“レストランとうきょう”にて若手技術者有志による初の会合が行われた。

第1回の会合参加者は下記の通りである。

山城教成（衛生工学）、森村武雄（衛生工学）、市瀬良男（建設）、
松原正美（機械）、永屋元靖（機械）、村田道雄（農業）、河上武（建設）、
中山登（生産管理）、新井槌之助（衛生工学）、陶山国男（応用理学）、
高尾令（水道）、加藤泰正（化学）、宮川育郎（電気）、長友正治（機械）、
石川源光（電気）　＜敬称略、順不同＞

これらの若手技術者の他、科学技術庁から谷島操技官、日本技術士会から平山復二郎会長及び高田一郎事務局長が出席した。

この会合では、以下の事が決められた。

- ①名称は「青年技術士懇談会」（以下、青技懇）とする。
- ②会員の資格は満40歳以下の日本技術士会会員
- ③目的は技術士の横の連絡と親睦、業務上の協力
- ④毎月1回、第3水曜日、集合午後5時（開会午後6時）に例会を開く

初代代表幹事となった石川源光氏の報告を見ると、この青技懇の設立は日本技術士会内において極めて異例のことであったようだ。

当時の日本技術士会の運営は厳格に部会中心であり、各部会を横に連絡する親睦集会はいかなる種類のものも認めない旨の理事会了解事項が存在していたためである。

1956年(昭和31)、石川氏は「年齢35歳未満の者」は規定により旧日本技術士会に入会したくとも、入会することができなかつたため、35歳になるのを待って入会している。

1958年(昭和33)頃より、石川源光氏、宮川育郎氏、松原正美氏、加藤泰正氏、新井槌之助氏、長友正治氏、中山登氏の7名は頻繁に会合を持ち、日本技術士会の老年パワーに反省を促し、後進のための道を開くことを相談したとのことである。

第1回会合に、平山会長、谷島技官が出席したのは、技術士の正しい活動のため、若手の不穩分子に対し説得を試みるためであった。

この席上で石川氏は、日本技術士会は我々の集まりを正式に認めるよう提言し、平山会長は「技術士は完成した技術者として認められた人でなければならない」「先ず若い技術者は、世間的にも金銭的にも成功して、その実力が付くまでは黙って先輩技術士に従っていればよい。」と理事会を代表する意見を述べられた。

それに対し石川氏は、「技術士の資格を得て登録した者はたとえ若手でも一本立ちの技術者であるが、未だ十分に経済力を蓄えてはいない。従って、これらの赤児の技術者が風邪を引かないように産着を与えてほしい。」と力説した。

ついに「産着論」に賛同し、平山会長は事務局に対し青技懇を積極的に支援することを

指示し、青技懇は部会中心の運営に支障を与えないこと、名称も「懇談会」とし部会に対抗するものではないことを誓約することで、日本技術士会公式の会合として発足した。

青技懇の運営については青年商工会議所のやり方に習うところが多く、構成員の年齢を40歳までとし、例外として代表幹事経験者のみは45歳まで在籍することを許すこととした。これらの年齢を超えた場合は、集会へ出席せず、自己の影響力を行使しないよう細心の注意を払うことを申し合わせた。

昭和40年代後半の日本技術士会の経営は財政面で逼迫しており、毎年会費の値上がりが繰り返され、会員サービスも会報を何とか出して体裁を保っていた。

第8期の伊豫部代表幹事時代に技術士試験対策セミナーを開催し、青技懇の活動資金として寄付を集め行事開催や活動記録を冊子として残すことができた。

沖縄返還に伴い技術士試験を沖縄で行うことになったのもこの時期であることを付け加えておく。

下記に記録に残っている代表的な例会を列記する。

日 時	概 要
1959年(昭和34)8月19日	第2回会合、報酬と税金対策について
1959年(昭和34)9月16日	第3回会合、技術士相談所の開設について建議。 ・ 日刊工業新聞社主催 特許と発明・産業展 ・ 第4回国際見本市
1960年(昭和35)1月26日	試験合格者の出席できる集会を開催。これ以降、青技懇主催の慣行となり、重要な行事の一つとなった。 ※当時、技術士会は合格者に対し積極的に入会を勧めていなかった
1960年(昭和35)8月11日	青年商工会議所(JC)の主要メンバーと会合
1961年(昭和36)10月4日	生産性本部の専門技術者視察団に参加した松原正美氏の報告を受け、青年技術士の海外進出について議論。
1962年(昭和37)6月20日	インダストリアル・デザイナー協会会長と懇談会を開催。

本誌では、各時期の活動を整理したが、その根拠は主に次の資料によっている。

- ・ 1967年(昭和42)から1979年(昭和54)：会報「JCEA」
- ・ 1974年(昭和49)から1975年(昭和50)：第8期例会・活動記録まとめ

なお、特筆すべき事項として、「技術士研修センター構想」があげられる。このセンター構想については、昭和50年当初から青技懇有志による発案であり、企画書や図面が残っていたため、別にまとめている。

参考資料：「日本技術士会30年史」「技術士'83年3月臨時増刊号」

2 回想

「私にとっての技術士資格」

1. 技術士受験の発端

「技術士に合格したよ」という親友からの電話で私は目覚めた。それまで私は技術士なるものを全然知らなかった。その親友は旧制高校の同期生で、かつ、同じ旧制大学工学部に進学した土木関係企業の会社員だった。私は機械工学科だったが、在学中も就職後も、遊びに勉学に常に連絡し逢う気心の知れた親友だった。

「彼奴が合格するのなら俺だって合格するのではないか」と競争心を掻き立てられて技術士に関する諸情報を集め始めた。

2. 技術士試験に関する東大教授の指導

当時、私は東大ロケット開発の渦中に居て、毎月の残業時間が200時間を超えるという凄惨な勤務状況だったので、情報を集めてもすぐに行動に移せるわけではなかった。その東大ロケット実験で、秋田の実験場へ出張した時、実験班員として参加して居た東大教授から技術士の話を聞く機会があり、やっと技術士に関する正確な情報が把握できた。その東大教授は前年度の技術士試験委員（航空関係）だったので、彼が出題した試験問題で私は「その場でテスト」された。私の解答が正確だったようで「君なら絶対合格するよ」と、技術士に関する懇切丁寧なアドバイスを受けた。そして、これからは「学位よりも技術士の方が高い評価を受ける」時代になると励まされたことを今でも思い出す。

3. 技術士試験

そして翌年、技術士本試験を受験した。書類試験は国家的見地に立ってのロケット開発方針の判断を求める題材だった。当時の私の立場では、いつも考えておかなければならない題材なので、自分の経験上の判断が役立った。

面接試験では試験委員と技術上の問題で激論を交わした。熱力学の関係式で、比熱比が分母にくるか分子にくるかの議論である。結果は試験委員をうち負かしてしまった。30歳前の若気の至りである。そしてその試験委員から「もういいから帰れ」と言われてしまった。

約20分を予定されていた面接で、退場させられたのは開始後5分位である。しまった、と後悔したが後の祭り。肩を落として帰路についた。

4. 結果発表

面接試験で試験委員の権威を傷つけたことになったので、当然、不合格を覚悟していたが、航空機部門では私1人だけが合格した。

待望の本試験合格はしたものの、本試験合格だけでは技術士になれず、当時の担当官庁だった科学技術庁に申請・登録が必要だ、と合格してから知った。

登録するには事務所開業が必要だが、ロケット開発企業に所属する者には副業が許されず、仕方なく1年間は何も出来ず、貴重な時間を棒に振る状態だった。見かねた人事部からのアドバイスもあり、とにかく形だけでも登録できないか経営会議にかけて貰ったところ、やっと合格2年後に条件付きで登録の許可がおりた。その条件とは「仕事が発生した場合は会社に連絡すること」という条件で、会社側も技術士は初めてのケース

なので慎重に審議したとのことだった。

5. 登録

科学技術庁の話では、私は「航空機部門としての登録第1号」だそうで登録番号は「1769」。数年後に「生産管理部門」の技術士に合格した時に新しい登録証が発行されたが、登録番号は当初と同じ「1769」で、技術士登録証は、昭和38年1月25日再発行のものだけが現在私の手元に残っている。

6. 青年技術士会

最初に登録した「航空機部門技術士」の時、青年技術士会発足の話が持ち上がり、ある期待をもって私は会合に参加した。会合は都心だったが、何処か忘れてしまった。

ある期待とは、秋田の実験場で試験委員だった東大教授から聞いた「技術士の認定がないと技術開発ができなくなる」という、法律上の弁護士や財務上の公認会計士と同じような役割制度が確立されるのではないか、という期待である。

会合では、その制度確立の議論が活発に話し合われたように思うが、実現するための熱意が不足していたためか、実現できなかった。

当時技術士の仕事だけで生活できる人は皆無で、青年技術士会に出席する方々は「他に本職を持っている方」ばかりだったように思う。その上、私は30歳を過ぎたばかりで青年技術士会の中では「駆け出しの小僧」のような存在だった為、積極的に発言するほどの強心臓はなく、何となく「お茶を濁して」いたよう思う。

当時を思い出すと、私は技術士会や青年技術士会の仕事に積極的ではなく、どうしても本職のロケット開発技術の方に力を入れていて技術士の資格は「お飾り」のようなものだったと反省している。技術士資格は定年後に独立した時に役立つかもしれない、という程度の期待しか持っていなかった。そして本業の多忙にまぎれて青年技術士会の方は欠席することが多くなり、自然消滅してしまった。

7. 副業

積極的にPRしたわけではないが、本業に全く関係のない「真空ポンプの設計」とか「パチンコ玉自動補給システムの開発」の仕事を実施した。後者は特許や実用新案10数件取得に発展し、現在のパチンコ業界発展の基礎となるシステムになった。それで当時としては多額の報酬を得、税理士のアドバイスもあって「節税のために確定申告」を開始した。

その他に技術開発や経営指導、社員教育など雑多な仕事がロコミで発生した。

8. 確定申告

昭和44年申告開始以来、約40年に亘り確定申告を継続しているが、技術士事務所を登録・開設した効果を痛感している。必要経費を落とせるからである。私にとっての技術士は、確定申告をするための資格になってしまった。

9. 技術士の将来

制度発足以来数十年になるが、弁護士や公認会計士、司法書士のような法的に強力な資格になることは期待できないと思っている。また私の経験上の感想であるが、技術士だけで食べて行ける人は少ないのではないかと感じている。

「技術士活動と技術発展・地球人類発展」

青年技術士懇談会が創立 50 周年を迎えられ御同慶に存じます。

昭和 39 年東京オリンピックの聖火ランナーのコーチを終え、メイン会場の審判席を離れ、ブレザーコートのまま面接会場に向かった。

無論のこと試験委員に、オリンピック役員姿について問われた。

正月明け、取引先の商社から、技術士合格の一報を頂いた。

早速、登録を済ませて、椿山荘で開かれた日本技術士会青年技術士懇談会に臨んだ。

そこには、石川源光初代、宮川育郎第 2 代、広田幸弘第 3 代、柳川達吉第 4 代の各代表幹事の錚々たるメンバーが顔を揃えていた。

当時の技術士のあり方として、「独立性」に厳しい松本健治幹事(元繊維部会長)の発言があった。

翌年幹事となり、1968 年、柳川氏の後を引き継ぎ、第 5 代代表幹事を仰せ付かった。

青年技術士の活用を願って、青年会議所(JC)との接触を図り、JC 全国大会にて青年技術士懇談会の有りようを、PR した。

ラルフ・ネーダー氏の日本車の安全性に関するアメリカ側の主張を聞く為に彼に面接し意見を交換した。

更には、労働安全衛生法の制定の為、労働省野中課長と共に、数度にわたる審議を重ね、労働安全・衛生コンサルタントの制定を定めた。第 1 回国家試験における技術士の優位性を認識して頂いた。その後、多数の労働安全・衛生に関心のある青年技術士が、清瀬の労働省研修センターにおいて長期にわたる研修をうけ、第一回目の労働安全・衛生コンサルタントが誕生した。

これが今日の日本安全衛生コンサルタント会の基礎となった。

その後、青年技術士の多くの同僚たちは、国内の企業の技術の中心となりわが国の技術発展に寄与した。

更には、開発途上国の技術発展のために、海外技術協力(JICA, JETRO, APO, NEDO, JODOC 等々)の専門家として、短期、長期にわたり、世界各国の技術発展に寄与している。

しかし、米国のマネーゲームに便乗した一部の資本家が、サブプライムローン、リーマンブラザーズのバブル崩壊に端を発し、世界経済が一挙に崩壊した。将にバベルの塔の如くである。それ以前に、派遣先のインド・パキスタンからこれらの危険性に注意喚起を当局に促したが、忠実な官僚によって、総て抹殺された。

バブルに関しては、経済に疎いといわれる技術者にあっても予知できた問題で、歴史的にも、オランダのチュウリップ事件から始まって、幾度かバブル崩壊があった。日本においても、近くは、ホリエモン事件、裏には、前記のリーマン一族、未だ姿を見せない政府高官が潜んでいる。

しかし、われわれ技術者は、新たな技術発展、地球人類発展の為、明日の環境にやさしい技術のために、更なる青年技術士の活躍を願ってやまない。

第 5 代青年技術士懇談会代表幹事 広瀬 正尚 (化学部門)

3 第8期例会・活動記録まとめ —新しい技術士像を求めて—

1. はじめに

青年技術士懇談会（以下、青技懇という）は、8期16年を経過して活動も活発になり、一つの転機を迎えることとなった。第8期（昭和50年6月～昭和52年5月の2年間）活動の特徴は、①例会を通じた相互研修②青技懇のメリット（多部門の有能な若手技術者の力を結集できる）を活用した技術士制度の普及活動の2点。青技懇は、その立場から何らかの社会貢献が期待されており、その実現に向けて更なる活動の充実・拡大、並びに日本技術士会の発展が期待されていた。

以下に、第8期例会・活動記録をまとめた。

2. 青技懇の活動に期待されていたもの

第8期の活動に対して、8名の歴代幹事からは、主に次のようなコメントがよせられた。以下、列挙するが、技術士の研鑽と地位向上への強い期待が伺える。

- ①小さな実績（後へ残るもの）の積み上げを大切に
- ②技術士の価値向上活動、PR活動、地位向上活動
- ③新しいプロジェクトの探索と積極的な取組
- ④若さと行動力を武器に技術士会の尖兵となる
- ⑤有能技術者の資格取得を含めた会員の増強運動
- ⑥考えてためらうよりまず行動する先取り姿勢

3. 主な例会報告

3.1 昭和50年度例会

6月：特許庁 審査官 堀宏太郎氏 講演【特許申請から成立するまで】

7月：(財)研究開発型企業育成センター 常務理事 鶴江嘉祝氏 講演
【研開型企業育成制度と技術士の役割について】

9月：日本科学技術振興財団 企画 日本シネセル 制作 映画上映
【水素エネルギー】

10月：通産省工業技術院サンシャイン計画推進本部総括研究開発官
江崎弘造氏 講演【未来技術とサンシャイン計画】

3.2 昭和51年度例会

3月：技術士本試験受験通信講座と技術士本試験合格対策講座の実施案内
技術士 時村交一氏（日本生産性本部）講演【東南アジア地域に
おけるコンサルタント業務の現状】

4月：会員 畔上統雄氏 講演【環境問題と技術士の役割】

5月：科学技術庁 振興局振興課長 上田三郎氏 懇談会・・・制度のあり方、
独占業務、PR、諸官庁の技術士活用状況などについて意見交換

6月：青技懇規約作成の計画

(社)プラスチック処理促進協会 企画 (株)グループ現代 制作
映画上映【ごみと社会 世界のごみ処理システム】

7月：青技懇規約の発効、工業技術院 栗山洋四氏 講演【未来交通機関】

9月：中小企業庁指導部技術課長 通産技官 村田輝史氏 講演

【中小企業振興育成の現状と技術士活用について】

11月：会員 橋本肇氏 講演【わが国における若手経営者の活躍の現状】

3.3 昭和52年度例会

2月：【青年技術士へ望む】と題して田中会長の講演及び懇談を実施

3月：技術士 堤枝隆三郎氏（設備保全技術者連盟設立委員長）講演

【設備保全技術と技術士業務】

4月：会員 榎村朗氏 講演【海外コンサルティング業務に携わって】

4. 昭和51年度8月臨時例会（技術士全国大会について）

8月22日、箱根芦ノ湖ホテルの1室にて、全国大会に参集した200余名の中、青技懇会員及び有志が集まり、ウイスキー片手に自由討論を行った。

主な発言内容としては、技術士の研修を目的とした研修センター計画、技術士本試験セミナーに加えて同試験通信教育の本年実施、コンサルタントとしての技術士のあり方など。

5. 技術士本試験合格者祝賀会

昭和50年度祝賀会（出席者約70名）を昭和51年1月、昭和51年度祝賀会（出席者約120名）を昭和52年1月に青技懇が主催した。これは、昭和50年度祝賀会より初めての試みであったが、何れも盛会であった。

6. 出版記念パーティー

「技術士本試験答案・講評集」が当会編にて株式会社テクノより出版（昭和52年4月20日付、本書原稿執筆者30名）されたので、これを記念して5月22日、出版記念パーティーを開催し、盛会であった。

7. （特別）活動報告

技術士の資質向上と再生産を目的とした「技術士研修センター設置提言のまとめのプロジェクト（昭和51年5月）」、技術士本試験の受験願書受付（昭和52年4月）及び試験監督（昭和50年8月、昭和51年9月）における「科学技術庁のお手伝い」をそれぞれ実施した。

本試験合格対策講座を、(株)新技術開発センター共催の下、昭和51年度、昭和52年度のいずれも4月と6月の2回実施した。講義に加えて論文添削や学科合格後に実施の模擬面接試験などのサービスを実施した。

本試験受験対策通信講座として、経営開発センター共催の下、昭和51年度、昭和52年度のいずれも4月と7月の2回実施した。遠方や仕事スケジュールの事由により出席できない方のための開講であるが、この間、外部から様々な問題が発生しており、その対処を含めて関係者のご苦労が伺える。

4 技術士研修センター設立構想

昭和 34 年に発足した青年技術士懇談会の活動は、昭和 50 年前後から広がりを見せはじめた。それまで実施していた主な活動は、技術士試験願書の受付時審査、技術士試験場における監督補助等の業務であったが、このころから積極的に技術士業務の拡大に繋がる活動を展開し、青年層の意見を集約して数多くの提言を行うようになる。このような事例の一つとして、昭和 51 年の技術士研修センター設立提案がある。

1. 構想立案の経緯

この研修センター構想は、昭和 50 年代当初から当時の青年技術士懇談会有志による発案に端を発し、青年技術士懇談会内に技術士研修センター構想作成委員会を発足させ、構想案をまとめるに至った。

研修センター設立構想作成委員会のメンバーは、委員長に黒澤豊樹氏、委員に星満氏、加藤義正氏、特別参加委員として、株式会社日本工営（現 日本工営株式会社）丸山彰偉氏が加わっていた。提案者名として、青技懇の伊豫部将三代表幹事、新井澄夫氏、黒澤豊樹氏、広瀬正尚氏の名が記載されている。

外部企業も交えて構想を具体化しており、この時代の青年層技術士の勢いを感じる。

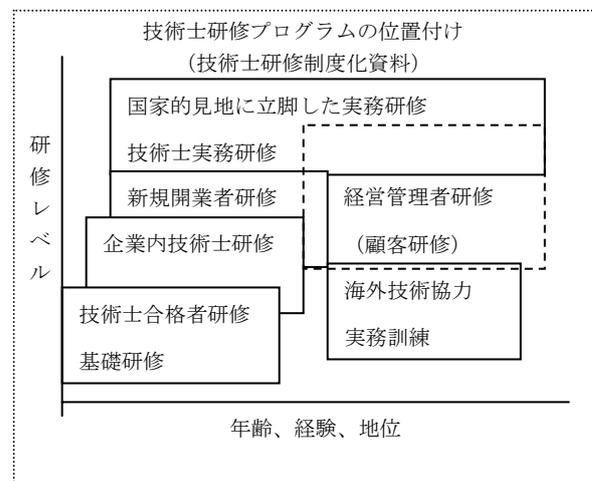
2. 設立の目的

研修センターの設立の目的の一項目として、研修の計画内容が掲げられている。この内容は、現在に受け継がれているものであることが確認される。

これによると、「専門技術を一方的に講義するばかりではなく、宿泊を共にし、技術士相互の人的親交を深めると共に、業として必要な識見、行動力を身につけることを狙いとし、事例を中心とした討議方式の相互研修」「海外技術協力のための実務的な研修及び技術士の顧客のための研修」とある。今日の青年技術士交流実行委員会における教育研鑽活動の柱となっている、「研鑽」「国際交流」の考え方が形作られており、今日の重要なテーマの一つである技術者倫理の項目も盛られている。大分類、中分類の項目のみ抜粋する。本提案においては更に、これらの項目の位置付けを定義し、技術士研修を制度化しようという試みも見られる。

研修計画内容（案）

大分類	中分類
1. 技術士業務基礎研修	(1) 技術士としての基礎研修
	(2) 新合格者研修
	(3) 企業内技術士研修
2. 技術士業務研修	(1) 新規開業者のための研修
	(2) 技術士実務研修 (事例研究、マーケティング等)
3. 海外技術協力	(1) 海外技術協力のための実務研修
	(2) 海外からの受入れ研修
4. 顧客研修	(1) 経営管理者研修
	(2) 企業技術者研修
5. 講演会・発表会など	



階層別研修の考え方に近い研修制度を提案していることが興味深い。現在よりもコンサルタント業務色の強かった当時の技術士制度の中であって、将来の独立を望みながら企業に属している世代の多い青年層技術士の要望を汲んだ内容であることがうかがえる。

3. 提案内容

構想案によると、研修センターは筑波研究学園都市に設立を想定している。当時の筑波研究学園都市は、1970年（昭和45）の筑波研究学園都市建設法施行以来、都市建設と機関の移転を開始しており、提案を実施した昭和51年は、まさに国内の主たる研究機関が続々と移転を実施している最中であった。建設中の世界有数の学術・研究都市に研修センターを築こうと考えたのは、省庁の援助を受けやすいという思惑の他、最先端技術を吸収し、研修内容の質を高めようという意気込みと受け取れる。

研修センターそのものの構想も、建設費総額10億円を超える大規模なものであり、テニスコート等の娯楽施設、展示室、技術相談のためのブースを備えた堂々たるものである。昭和50年頃の物価の目安として、当時の大卒の初任給が約9万2千円の時代であった。単純比較は出来ないが、当時の10億円は現在の倍以上の感覚であったであろうと想像する。

敷地規模、建設費概要		建物概要	
敷地面積	9,775m ²	教室棟 (2階建)	講堂 150名
建物床面積			教室 40名:3室
教室棟 (2階建)	延 1,183m ²		討議室 8~15名:6室
サービス棟 (1階建)	延 432m ²		技術相談室、展示室
宿泊棟 (3階建)	延 1,695m ²		図書室、PC室
計	3,350m ² (その他40m ² 含む)	サービス棟 (1階建)	食堂、ラウンジ
建設費概要		宿泊棟 (3階建)	宿泊室 76室
工事費	7億3,000万円		浴室 (BF)
什器、備品	3億2,620万円	その他施設	駐車スペース 28台
合計	10億5,620万円		テニスコート 2面

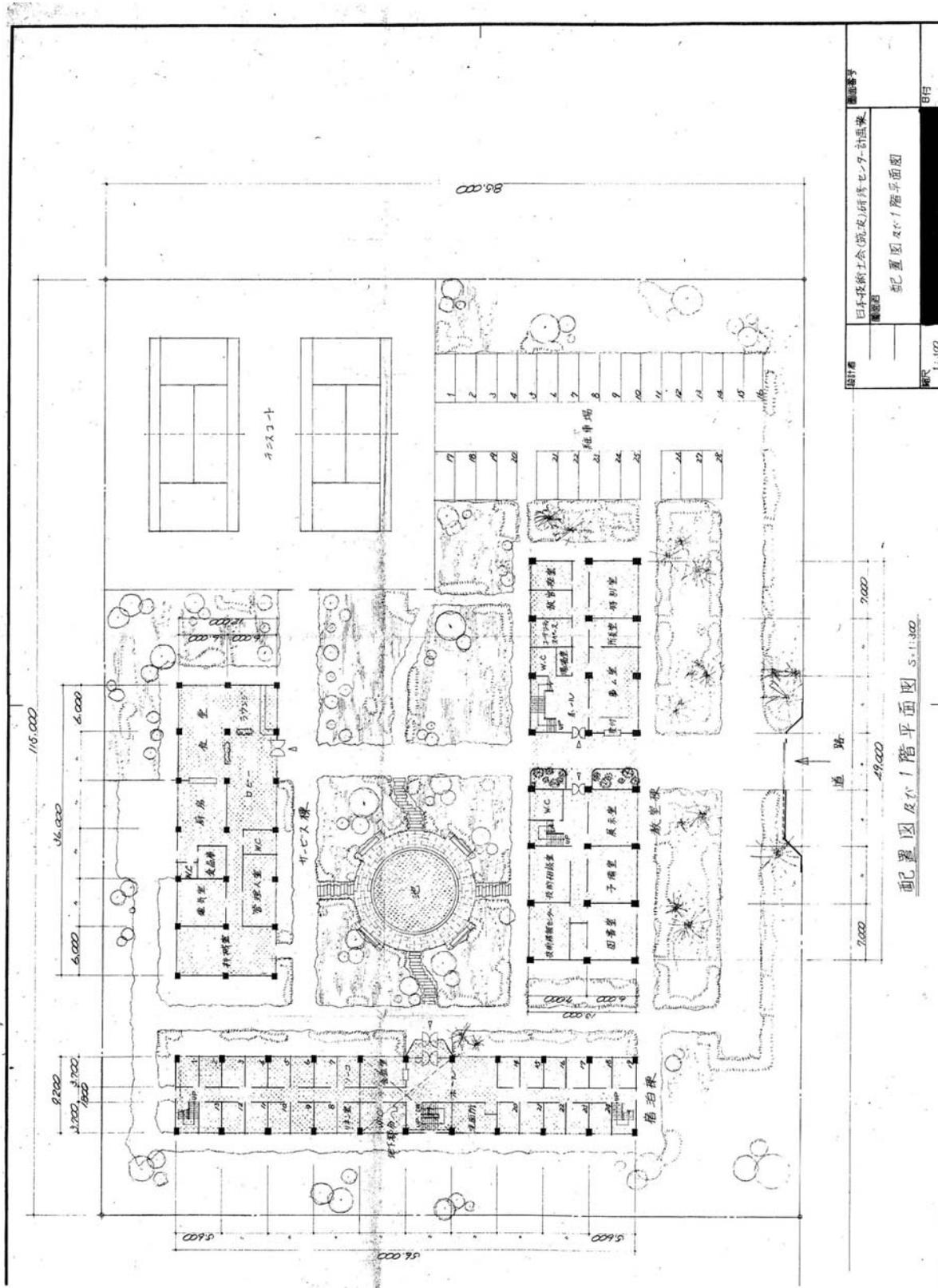
4. その後の展開

昭和50年の前後は、二度の石油ショックによりそれまでの高度経済成長の伸びが鈍化し、安定成長へと切り替わりつつあった時期である。このためか、筑波研修センターは現実のものとはなっていない。しかしながら、本提案書によりとりまとめられた教育研修の内容は、青年技術士実行委員会のみならず、他の委員会を含めた日本技術士会のCPD行事として定着しているものが数多く見られる。

当時の青年層技術士の発想のスケールの大きさ、教育研鑽に対する意気込みに驚嘆し、青技懇の創生と発展期の勢いを感じた。現役の青年委員会、青年層技術士、技術者は、これらの足跡を財産として継承し、発展させていかなければならない。

参考資料：技術士研修センター設立構想に関する提案書

(昭和51年7月 青年技術士懇談会)



設計者	日本技術士会(筑波)研究センター計画	図面番号	
職名	配置図及び1階平面図	縮尺	1:300
ページ		総ページ	8/9

配置図及び1階平面図 S.1:300

5 インタビュー 青景 堯(あおば たかし)

1936年 栃木県生まれ

1960年 早稲田大学第一理工学部機械工学科卒業

株式会社東芝（当時社名、東京芝浦電気株式会社）入社

1973年 技術士 化学部門合格

1990年 同社退社（定年扱） 青葉技術士事務所開設 現在に至る

.....
— 当時はどんな時代だったのでしょうか。

その頃は会社は55歳定年で、メーカーの人達は定年前に定年扱いで辞めることが多かった。辞めた人は、協力会社や下請工場を立ち上げて、勤めていた会社の助けになるといった時代でした。今のリストラのような悪いイメージではなかったんですね。

— 昔の理事会議事録など見ますと、青技懇は技術士会の不穏分子扱いのようでしたが。

そうでしたね。でも悪い意味ではなく、元気が良かった。ことなかれの理事に噛み付いたりしたので、そんな表現になったのかもしれない。

当時の青年技術士懇談会（以下、青技懇）の定年は40歳でした。私は日本技術士会には1974年に入会し、青技懇にも同年入会しました。当時私は37歳でした。

— その頃の青技懇のカラーは？

私は企業勤務でしたが、技術士は独立しなければという雰囲気が濃かった。

だから例会なんかも、技術士業務の開拓に関するものが多かった。

みんなお金持ちになりたかったんですね。貧乏な時代でしたから。でも金儲けしたかったら技術者になっちゃだめですよ。

— 当時、何か事件はありましたか。

一度大議論になったことがありました。何が元だったか覚えていないので、たいしたことではなかったのでしょうか。その大議論が続いて、雰囲気が良くなかったので、私は議論をやめる仲裁をしました。しかし、議論をやめた途端、活性度が下がりました。

議論はとことんするべきでしたね、水を差しちゃいけない。でもその後、当事者達はとも仲良くなりました。

今はメールでやり取りして、面と向かって喧嘩したりしないでしょう。あれはよくない。それこそ顔も見たくなくなっちゃう。陰険な間柄になる。顔を見て思っていることを言い合うのがいい。

— 楽しかった思い出はありますか。

それぞれの例会も楽しかったのですが、研修旅行は特に楽しかった。毎年必ず行っていました。技術士会へ活動報告をしていましたから、工場見学とセットにしていたのですが、

観光が一番の目的でした。川俣温泉などは当時秘境で、細い山道をクネクネと向かったのを覚えています。懐かしいですね。

—実現できなかった活動などありますか。

技術士会の名前の入ったユニフォームを作って、災害時に人助けに行こうという企画がありました。技術士の知名度もあがるんじゃないかと。

でも、人の不幸につけこむのはよろしくないという意見が出てやめました。

当時はボランティアという概念が少なかった。社会に役立ちたいという意識や行動が今と比べるととても制限されていたように思います。今は自由ですね、本当に。

—技術士の知名度は当時はいかがでしたか

会社に技術士がいれば、やはり注目もされたし、重宝されましたが、世間的にはどうかな。

35年以上も前のことですが、技術士制度を創設した大先輩たちがいました。その話によると、技術士を民間資格でスタートしたときは、資格を取る人は、必ず「仕事をするため」でした。技術士の評価は非常に高くなるはずでした。ところが、国家資格にして、権威ある資格だとアピールしたところ、「自慢することを目的とする」者が乱入するようになったと言うのです。

普通の人間は、自分の能力の限界を知っていますから、自慢などしたくてもできません。ある程度の事情、基礎的な知識がなければ、専門業界に立ち入ることもできません。これできて自慢できるのは「コンサルティング」だけです。

テングは人間ではありません。神様ですから、知識があろうがなかろうが、何でもわかってしまいます。実際殆ど解決できますが、知識がないものは現実には失敗です。その1つか2つの大失敗で大損害を与えます。人間は助け合って、失敗をカバーしますが、テングはだれもカバーできません。少数のテングのせいだと思いますが、どこからか、「技術士には懲りた」という噂が聞こえてきました。驚くべきことに、この種の噂は、昔も今も根強くあるのです。

—これからの青年技術士に伝えたいことはありますか。

昔は独立志向が強いから、青技懇の例会も仕事を取るためのプロジェクトが多かった。悪い意味ではなく、私利私欲こそが活力の源泉だと話していた。

今の青年委員会の活動を聞いていると、会員へのサービスは勿論、次の世代の事まで考えて、行動している。これから公益法人化される技術士会に必要な姿勢です。自分ももっと子供達に技術士を分かってもらおう活動をするべきだったなと思っています。



インタビュー場所：交詢社
インタビューア：田村裕美

例会等活動一覧

日付	場所	活動内容
昭和 42/10/18	晩翠軒	懇談
昭和 42/12/13	有楽町レストラン A ワン	業務開拓と業務活動の研究
昭和 43/2/20	学士会館	合格者歓迎会
昭和 43/4/17	有楽町レストラン A ワン	技術士業の研究
昭和 43/8/18	有楽町レストラン A ワン	年間運営計画
昭和 44/4/16	農業土木会館	① 電子計算機の活用 ② 技術士業務について意見交換
昭和 44/5/10	農業土木会館	昭和 44 年度方針
昭和 44/5/31	農業土木会館	定例会
昭和 44/6	氷川丸	関西支部との交流会
昭和 44/7/9	農業土木会館	定例会
昭和 44/8/7～9	黒部ダム	黒四ダム・日本電気化学見学
昭和 44/9/10	農業土木会館	定例会、研修会
昭和 44/10/8	農業土木会館	研修会（公害対策）
昭和 44/11/7	レストランみずほ	青年会議所と懇談会
昭和 44/12/6	松竹	忘年会
昭和 45/1	レストランみずほ	業務開拓
昭和 45/2		研修会（税金対策）
昭和 45/3		定例会
昭和 45/6/17	農業土木会館	定例会
昭和 45/7/15	蔵前工業会館	技術士業務の紹介
昭和 45/8/3	蔵前工業会館	青年会議所説明会
昭和 45/9/1		定例会
昭和 46/2/12	農業土木会館風月堂	定例会
昭和 46/3/26	農業土木会館	技術士業務開拓
昭和 46/4/23	農業土木会館風月堂	定例会
昭和 46/6/1	農業土木会館	総会
昭和 46/7/16	農業土木会館風月堂	定例会
昭和 46/8/28 ～29		ほてい缶詰富士川工場見学、富士五湖ドライブ旅行
昭和 46/10/29	農業土木会館風月堂	定例会 韓国技術士会との交流報告
昭和 46/11/12	農業土木会館風月堂	講演会「環境問題と技術士業務」
昭和 46/12/10	王府	講演「台湾の技術状況について」
昭和 47/2/25		田中会長との懇談会
昭和 47/3/24		CIOS 協会の活動について
昭和 47/4/21		航空宇宙技術研究所・調布飛行場分室見学会
昭和 47/5/18	近畿電気工事	歴代代表幹事との懇談会
昭和 47/6/23		優秀科学技術映画鑑賞会
昭和 47/7/28		ベンチャービジネスの技術開発と金融制度
昭和 47/8/26 ～27		矢崎総業沼津工場見学と山中湖合宿
昭和 47/10/20		映画鑑賞会「超自動化船」
昭和 47/11/17	農業土木会館	講演「工作機械の適応制御と群管理システム」
昭和 47/12/8	新橋亭別館	活動報告、忘年会
昭和 48/2/9		科学技術庁新作映画鑑賞 新合格者との懇談会
昭和 48/6/29	農業土木会館	田中会長を囲む会
昭和 48/8/25 ～26		東電鹿島火力、表面加工所、原子力研究所見学
昭和 48/9/28	農業土木会館	講演「スピンオフの事例研究」
昭和 48/10/28	近畿電気工事	幹事 4 名における講演、交流会
昭和 49/2/28	農業土木会館	講演「混乱期における技術士の飛躍」

日付	場所	活動内容
昭和 49/3/29?	農業土木会館	講演「田中首相歴訪後の東南アジア事情」
昭和 49/11/29	農業土木会館	講演「東南アジア及び米国の情勢とわが国の技術士の地位 海外での評価」
昭和 50/3/29	農業土木会館	講演「わが国の保険制度と技術士に有利な保険のすすめ」
昭和 50/5/30	蔵前工業会館	講演「技術士のためになるお話」
昭和 50/6/27	農業土木会館	総会、講演「特許申請から成立するまで」
昭和 50/9/5~6		バンダイ工業、トミー工業、富士重工宇都宮航空機工場見学、川俣温泉合宿
昭和 50/?/26	農業土木会館	定例会
昭和 50/10/25	農業土木会館	講演「未来技術とサンシャイン計画」
昭和 50/11/16~21	晴海	デザインエンジニアリングショウ'75にて無料技術相談所を開設
昭和 50/11、12	—	国鉄ストの影響にて例会中止
昭和 51/3/26	農業土木会館	定例会
昭和 51/4/28	農業土木会館	講演「環境問題と技術士の役割」
昭和 51/5/28	農業土木会館	科学技術庁振興局課長との懇談会
昭和 51/6/25	農業土木会館	映画鑑賞「ごみと社会—世界のごみ処理システム—」
昭和 51/7/30	農業土木会館	総会、講演「未来交通機関」
昭和 51/8/30	箱根	全国大会における青年技術士交流
昭和 51/9/14	農業土木会館	講演「中小企業政策と技術士」
昭和 51/10/		研修旅行
昭和 51/12/18	農業土木会館	青年技術士懇談会設立 15 周年パーティ
昭和 51/11/26		若手経営者との交流
昭和 51/12	農業土木会館	忘年会
昭和 52/1	農業土木会館	合格者祝賀会
昭和 52/2/25	農業土木会館	技術士会会長との懇談会
昭和 52/3/25	農業土木会館	海外コンサルタントの情報紹介
昭和 52/4/22	農業土木会館	独立者の体験報告
昭和 52/5/27	農業土木会館	科学技術庁振興局課長との懇談会
昭和 52/6/24	農業土木会館	未来技術紹介
昭和 52/7/29	蔵前工業会館	講演「海外技術交流の難しさ」、「韓国における技術士業務の展開の可能性について」
昭和 52/8/27	農業土木会館	座談会「青技懇に何を望むか」
昭和 52/11/15~19	科学技術館	デザインエンジニアリングショウ'77に出展
昭和 52/10/28~29		長野県精密工業試験場、小渋ダム見学、小渋温泉合宿
昭和 53/2/24	農業土木会館	講演「技術士と英語」
昭和 53/3/31	農業土木会館	映画鑑賞「最近の台湾における工業化」 講演「海外への技術協力～台湾の産業の現状と今後の方向」
昭和 53/4/25	農業土木会館	研修「技術コンサルタントの実務」
昭和 53/6/30	農業土木会館	総会、 講演「ヨーロッパにおけるプラスチック加工機械視察」
昭和 53/7/28	農業土木会館	先輩技術士を囲む会
昭和 54/3/30	虎ノ門技術士会会議室	講演「新中国事情について」
昭和 55/2/15	虎ノ門技術士会会議室	講演「原子力開発の現状について」
昭和 55/3/14	虎ノ門技術士会会議室	講演「油圧の電気サーボ機構」

備考) 表中の空欄は、根拠とした資料からは開催場所、開催内容が確認できなかったもの。

1 から 10 期までの幹事

1 期【1960 年(昭和 35)7 月～1962 年(昭和 37)6 月】	
石川 源光 (電気)	中山 登 (生産管理)
山城 教成 (衛生)	新井 槌之助 (衛生)
市瀬 良男 (建設)	高尾 令 (水道)
永屋 元靖 (機械)	宮川 育郎 (電気)
河上 武 (建設)	陶山 国男 (応用理学)
森村 武雄 (衛生)	加藤 泰正 (化学)
松原 正美 (機械)	長友 正治 (機械)
村田 道雄 (農業)	垣見 恒男 (航空機、生産管理)
2 期【1962 年(昭和 37)7 月～1964 年(昭和 39)6 月】	
宮川 育郎 (電気)	
3 期【1964 年(昭和 39)7 月～1966 年(昭和 41)6 月】	
弘田 幸弘 (電気電子)	本田 尚士 (化学)
4 期【1966 年(昭和 41)7 月～1968 年(昭和 43)6 月】	
柳川 達吉 (生産管理)	
5 期【1968 年(昭和 43)7 月～1970 年(昭和 45)6 月】	
広瀬 正尚 (化学)	新井 澄夫 (機械)
黒澤 豊樹 (電気)	三廻部 真己 (農業)
惣田 正良 (衛生工学)	橋本 肇 (金属)
6 期【1970 年(昭和 45)7 月～1972 年(昭和 47)6 月】	
黒澤 豊樹 (電気電子)	橋本 肇 (金属)
三澤 昭 (電気電子)	畔上 続雄
長崎 昭司 (建設)	
7 期【1972 年(昭和 47)7 月～1974 年(昭和 49)6 月】	
新井 澄夫 (機械)	伊豫部 将三 (機械)
松本 俊次 (電気)	長崎 昭司 (建設)
8 期【1974 年(昭和 49)7 月～1976 年(昭和 51)6 月】	
伊豫部 将三 (機械)	小針 輝夫 (電気)
上岡 昭春 (機械・水道)	八鍬 稔生 (水道)
鈴木 将成 (電気)	傳田 勲郎 (建設)
星 満 (機械)	宮田 孝博 (電気)
9 期【1976 年(昭和 51)7 月～1978 年(昭和 53)6 月】	
鈴木 将成 (電気)	茅野 光広 (建設、総監)
尾崎 光三 (電気)	小針 輝夫 (電気)
深野 宏之 (生産管理)	青葉 堯 (化学)
廣川 勝久 (情報工学)	
10 期【1978 年(昭和 53)7 月～1980 年(昭和 55)6 月】	
深野 宏之 (経営工学)	星野 務
伊藤 公紘 (情報工学)	中村 喜平 (生産管理)

第 2 章

展開期の青年技術士懇談会

第2章 展開期の青年技術士懇談会

1 主な活動

プロジェクトチームのひとつとして活動してきた青技懇は、平成2年度末調査委員会として再出発することになる。

目的は設立時から引継ぎ、「会員相互の親睦と研修による各人の資質向上を目指しながら、青年技術士としての立場から対外的活動の幅を広げ技術士制度 PR と技術士業務の発展に努めること」とある。

青技懇では運営の主体となる幹事が2年ごとに若返るため、その時々で具体的な活動内容は変化している。講演名から当時の最先端の技術、興味を持たれていた技術などが読み取れる。

1993年(平成5)には「コーヒーブレイク」例会のように、一方的に講演を聞く例会から、参加者一人一人が発言者となる参加型の企画が誕生している。

参加者から様々な意見や報告、要望、提案などを聞き、活動に反映させることは主体的な活動を目指す若手会員から好評であり、調査委員会として「若手技術士の意識調査」「若手会員の技術士会への期待」などを会員から汲み取る活動の基となった。

調査委員会に移行することによって技術士会に対し一定の予算を計上できるようになった。それまでは執筆した本の印税や論文添削などのアルバイト費をもとに運営されていた。

この時期の活動のひとつとして、試験業務があげられ、技術士試験の監督官の選定・派遣を行っており、100名を超える監督官を動員している。

1992年(平成4)～1993年(平成5)の17期、NIFTY-Serveによる青技懇ホームパーティを開設し、1998年(平成10)～1999年(平成11)の20期よりホームページ開設の試行的な実施や、例会案内の葉書を電子メール(メーリングリスト)に切替はじめている。

特筆すべき事項として、平成5年には第1回青年技術士シンポジウムの開催をあげることができる。下記に記す概要のとおり、基調講演と自由討論会によって構成されていた。

【第1回青年技術士シンポジウム】

日時：1993年(平成5)9月10日(金)

場所：中央大学 駿河台記念会館

■基調講演：「電腦未来」

東京大学理学部 坂村健教授 (若手の代表的研究者であり、TRONプロジェクトの推進者)

■自由討論会

下記の5つのテーマ別の分科会に分かれて開催された。

- ①21世紀の技術者像、②三次元的交流、③コンサルタントエンジニアとは？、④環境問題、⑤製造物責任(PL)

参考資料：「技術士」

2 回想

技術者生命を救った資格「技術士」

私は、技術士を取得し、青年技術士懇談会で活動したおかげで、技術者としての生命が絶たれる危機を乗り切ることが出来た。その顛末をご紹介したい。

ゼネコンに入社し、10年目を迎えた私は、都市土木工事の現場の副所長を務めていた。ある朝、いつもの通り朝礼を終え、作業を開始した直後の午前9時頃、検察官の一行が作業所の事務所に乗り込んできた。いきなり「カーテンを閉めて下さい。只今から〇〇らの逮捕に伴う事務所内の捜査を始めます」という。聞けば私の直属の上司5人が逮捕されるという大事件が勃発したのだ。罪状は、官製談合に伴う贈収賄であった。勿論私は犯罪には全く関与しておらず、法的には何のお咎めもなかった。しかしこの事件以降、私の社内での立場は極端に悪くなった。それまで順調であった昇進が急停止してしまった。

いろいろ苦勞しながら何とかその現場を完成させ、次の新しい現場に移った。その現場は、シールド工法を適用してトンネルを築造する工事であった。工事内容は、地盤が悪く長径45cmの巨礫が大量に出土し、しかも地下水が多く崩れやすい地盤でのトンネル築造という難工事であった。しかし、その難問も新工法の開発により解決し、無事完成させることが出来た。

翌年、この技術開発を経験論文のテーマにして技術士試験に臨み、無事合格した。これを機に私は技術営業担当に変わった。全国営業の結果、この新工法は大ヒットした。その功績が認められ、私は技術研究所岩盤研究室長に昇進した。技術士取得後、私は青年技術士懇談会に入会し、積極的に活動した。昭和61～62年は、北川代表幹事の下で副代表、昭和63年～平成元年は、代表幹事を務めた。とくに技術研究所での研究には、青技懇で培ったノウハウや人脈が大いに役立った。おかげで技研でも順調に成果を上げることが出来た。昇進もお釣りがくるくらい十分に挽回した。通常、企業はその時代のニーズにあった研究をテーマとして取り組む。最初の岩盤研では大深度地下開発対応のトンネル技術の研究を行った。次は、コンピュータと通信技術の発達により、産業界では無人化・省力化技術の開発がブームとなった。我々は、建設ロボットの開発に取り組んだ。開発したロボットは、雲仙普賢岳にて噴火により発生した土石流の除去工事に採用された。続いて地球環境問題が社会問題となった。このテーマに対しては、地球温暖化対策の研究に取り組んだ。土木学会や日本建設業団体連合会では、環境専門委員として活動した。その後コンサルタント勤務を経て、平成15年に公募で名古屋工業大学環境都市工学科の準教授に選ばれた。名工大は、4年8ヶ月間勤務し、昨年(平成20年)の3月、63歳で定年退官した。大学では、学部では建設マネジメントと環境行政、大学院ではインフラ経済論(インフラの維持管理問題を扱うアセットマネジメント)を講義した。大学でも技術士を持った教員として重宝された。また長年実業界で身につけた「現場の技術を若い学生達に伝承する」という技術屋として最高の終盤を迎えることが出来た。

以上のように、我が技術者人生を振り返ってみると、人生のピンチを救ったのは、技術士試験に合格したことであると、はっきりといえる。芸は身を助けるというが、私の場合、技術士という資格が身を助けてくれた。現役はリタイヤしたが、技術士の資格を汚さぬよう自己研鑽に励んでいきたいと思う。

第15代青年技術士懇談会代表幹事 和久 昭正 (建設部門)

青年技術士懇談会の思い出

50周年おめでとうございます。

技術士会の創成期に青年技術士懇談会（青技懇）が誕生し、その活動が青年技術士交流実行委員会として、現在も活発に受継がれていることに敬意を表します。活動を支えてこられた歴代の幹事の皆さんに敬意を表します。

私が代表を務めさせて頂いた16期（平成2～3年）は、今日の状況とは異なり、日本の景気の良い時期でした。企業が自社ビルの新築、改築を競い、社員の福利厚生に力を注いだ時で、高層ビルの最上階に社員クラブが誕生した所もありました。夏の例会、年末の忘年会はそのような企業の社員クラブを、月例会も設備の充実した企業の会議室を、担当幹事さんのご尽力でお借りしました。他企業の施設見学も目的の一つです。勿論、虎ノ門の技術士会会議室での例会も開催しました。試験部長の樋口さんには、何時もポケットマネーで缶ビールの差入れのご配慮を頂きました。

例会は、各技術部門のトレンドリーな内容の講演に加え、技術に縁の薄い金融情勢、健康管理等の講演を散りばめ、技術的に深いが常識の幅も広く、を心掛けました。気候の良い春と秋には見学会を行ない、もう無くなりましたが日産座間工場の溶接ロボットを見たり、架設中のレインボウブリッジの主塔の頂上に立ち、キャットウォークを歩きました。例会参加者の増減に担当の幹事は一喜一憂したものです。幹事さんのご苦勞は今も同じだと思います。

そんな時代背景の16期で、特筆すべきは、委員会への昇格を果たしたことです。技術士会の中では最も若い会員が、技術士会の最初の活動の場として、最も技術士会的な横断組織として、参加できるのが青技懇です。その青技懇が、任意の非公式の組織で、年次報告にも記載されず、予算配分も無しの活動です。例会参加者の会費と幹事の手弁当では活動に限界があります。技術士会を活性化するには青技懇の活力が不可欠です。活動実績を基に理事、部会長にお願いをして回り、忘年会には全ての部会長に招待状を出しました。青技懇OBの部会長、事務局の谷嶋専務のご助力もあって、1年後、調査委員会に昇格しました。気がつけば、もう20年近く前になる思い出です。今もその精神は、青年技術士交流実行委員会として受継がれているようです。更なる発展、繁栄を祈念し、その活動に微力ながら参加できたことに、感謝します。

第16代青年技術士懇談会代表幹事 水谷 敏彦（建設部門）

第三者の立場という視点

青技懇、設立 50 周年、おめでとうございます。

青技懇（正式には青年技術士懇談会）というのが、我々が長らく親しんだ名称である。現在は「青年技術士交流実行委員会」というようだが、つい青技懇という言葉が出てしまう。一度染み付いた名前はなかなか変わらない。

その歴代の名簿を見ると、私たちが青技懇として活動した時期は 1990 年頃であるらしい？多くの先輩方から見ると、ついこの間という感じではあるが、約 20 年もの歳月が経っている。その頃一緒に活動したメンバーは、ほとんどが会社勤務であったが、現在では独立している仲間が多い。その頃から「独立」という魅力に取りつかれていたのかもしれない。逆に、懐かしい名前の人達は、そろそろ定年を迎えるころだろうか？

最近の報道を見ると、世の中は不況という荒波が襲っている。わずか 1 年で、これだけ世の中の景気も変化するのも珍しい。我々は貴重な歴史の証人になれるそうだが、技術士としての仕事は、今後どうなるのだろうか？建設分野のコンサルタント登録という特権も見直されそうな気配であるが、これを機会に技術士の仕事も大いに改革が必要と思う。

最近、技術士会でも「技術監査」という言葉が盛んに論じられるようになった。これは技術士の仕事として「コンサルタント」と並ぶ、大きな業務分野になりそうな領域である。

「コンサルタント」と「技術監査」で共通する事項は何かといえば、当事者でない「第三者の立場」という視点である。これは当たり前のようなものであるが、日本では一番認知されていない領域である。これまでの日本では、二者間（甲と乙）の仕事しかなかったと言ったら言い過ぎだろうか？

今回の不況の原因は、金融機関が自らのリスク（サブプライムローン）を適切に評価できなくなったことに起因するという。技術分野も全く同じで、第三者が現状を正しく評価し（技術監査）、それに対する対策を提案する（コンサルタント）というのが、技術士に求められる役割である。日本の組織も社内に第三者を入れるという、決断が求められる。今の日本で、最も注目を浴びている「第三者の立場」という仕事は、技術士にふさわしい。いよいよ我々技術士の時代が来た。そんなことを考えている、今日この頃である。

第 17 代青年技術士懇談会代表幹事 岡 孝夫
(建設部門、情報工学部門、総合技術監理部門)



代表幹事活動から見た技術士制度

技術士になってすぐに参加させてもらったのが青年技術士懇談会で、そこで新しい知識を学ぶと同時に多くの友人を得たのが、私にとって貴重な財産となっています。青年技術士懇談会で楽しみながら勉強している中で幹事へのお誘いがあり、それが多くの友人との出会いの場を作ってくれました。その後代表幹事を務めることになりましたが、その際に、それまでは代表幹事が（社）日本技術士会からの依頼事項を一手に引き受けていた慣例を変更し、全幹事の分業制にしました。また、それまでは幹事が一斉に交代していたために、事業の継続性の面で問題がでる場面がありましたので、半数改選方式に変更しました。そのためには規約の改正が必要であったため、最初の仕事が規約改正になったのを記憶しています。こういった改正によって、幹事の個人的な負担は軽減できましたが、幹事間の付き合いの度合いが薄くなるという弊害があったかもしれません。私が幹事をしていた際には、比較的幹事合宿も多く、緊密な関係を保ちながら会を運営できたと思っております。その結果の1つが青年技術士懇談会主催の第1回シンポジウムの開催でした。三田のNNビルで開催するまでに何度か合宿を行い、講演者との交渉を行った経験は、自分の会社の業務においても自信となっていきました。そういった点で、幹事になって得たものは大きかったと思います。

当時の幹事の中で今でも記憶にあるのが出版です。その頃、技術士試験に関する本は問題集しかなく、試験の概要や目的を知るのは難しかったために、そういった点をもっと明らかにして、より多くの技術者が技術士を志すようになれば良いという会話を幹事の中でしておりました。その結果、当時の幹事であった岡孝夫氏、小林彰氏、杉内正弘氏、近藤光夫氏、宝田元康氏、山本弘明氏など多くの方々が著作者として活躍されるようになりました。昨年は、私も杉内さんと共著をさせていただくなど、今でも良いお付き合いをさせてもらっています。ただ残念なのは、共に幹事を務めた、近藤光夫氏や北野粒氏という優秀な技術士が早世されたことです。彼らが生きていれば、もっと多くの社会貢献をされたのではないかと悔やまれます。

そういった多くの仲間に支えられて、無事に代表幹事の責を満了でき、その後は多くの場面で日本技術士会の委員として活躍する機会を与えてもらい、会社の中ではできない経験をさせてもらっております。そういった場面で当時の幹事仲間と同席する場面も多くあり、心強い思いで委員会に参加できます。このような過去の経験の中には、文部科学省との協議会や懇親会もありました。

その中で、技術士資格の更新制度を進言したりする場面もありましたが、残念ながら、現在のところ実現にはいたっていません。その代わりにCPD（継続研鑽）制度がありますので、現在はCPDの登録を自分なりにしっかりとやっています。これからも、委員会等で多くの技術士と知り合って、研鑽を深めていきたいと考えております。

第18代青年技術士懇談会代表幹事 福田 遵
(電気・電子部門、総合技術監理部門)



技術士という資格と出会って

青年技術士懇談会（青技懇）から現在の青年技術士交流実行委員会にかけての50年という長い歴史をあらためて知り、この長い間にご尽力いただいた歴代幹事・委員の皆様にあらためて深く感謝申し上げたいと思います。自分自身も20期の代表幹事を拝命し、技術士という資格をより深く見つめるよい機会となりました。

今の技術者としての自分があるのは、その始まりは技術士の資格を取ったからだとは間違いなく言いきれます。受験した当時こそ技術士資格はあまり知名度が高くなく、受験の情報を集めることさえ困難さが伴っていました。また自分自身としても、それまでは「井の中の蛙」のサラリーマンであり、社外との交流をしたいと考えていても、「つて」も無く実現不可能かと考えていたものでした。

しかし技術士に合格し、合格祝賀会のときに青技懇の存在を知り、「技術士は単なる資格だけでは無いのか？」と思い、かつ自分の思っていた社外・異業種交流ができるんだ！と感じるに至りました。初めての青技懇の会合は多くの先輩技術者の集まりであり、自分のような若い技術者は肩身が狭いかなとも感じました。しかし多くの先輩が「石井君！石井君！」と相手にしてくれたことは本当にうれしいものでした。

青技懇では本当にたくさんの技術者（それぞれの分野も異なる）と知り合うことができました。自分のサラリーマン技術者としての考え方を大きく変え、新たな視点を見出すことができたのも、これらの皆さんとの交流でした。

さらに20期の代表幹事を拝命し、社会人博士課程在学との二束のわらじで社外の業務を行ったことは、大変でしたがとても思い出深い2年間でした。年齢的にはご協力頂いた幹事の方々は先輩ではありましたが、さすがに優秀な皆さんであり、ご協力と良好な関係により、幹事会や活動が大変スムーズに進んだことは大変ありがたいことでした。

「45歳以下」という青技懇の年齢規定はまだまだ先、と思って15年近くを青技懇の中で楽しく活動してきました。後半は各種事情などがあり参加が少なくなっていました。ふと気がつけばその45歳を迎えてしまっております。時の経つのは早いと思う一方で、青技懇が50周年ということは、自分の生まれる前から青技懇があったわけで、その歴史の長さをあらためて深く実感するところです。

50周年、これまでの長い歴史に感慨を感じつつ、今回の節目に心からお祝いを申し上げたいと思います。

第20代青年技術士懇談会代表幹事 石井 聡
(電気・電子部門)



青年技術士懇談会の思い出

初めて青技懇に参加したのはいつのことだったろう。参加した日も参加した動機も全く覚えていない。緊張していたのか、それともあまりにも気安かったのか。ただ、社内とも違う、友人同士とも違う、社外とも違う、自由でいて礼節があり、それでいて和気あふれる雰囲気、ある種「異国」を感じたことだけは覚えている。

その時、何が話し合われたのかも実は覚えていない。こんなに覚えていない尽くしで「思い出」というタイトルもないものだが、雰囲気だけは良く覚えているのである。その後も何度となく参加したことを考えると、内容は覚えていないものの楽しかったことだけは間違いない。当時の勤め先は、相模川の河岸段丘に隔離されたように建てられた建設会社の研究所で、神谷町のような都会に出てくるだけで一仕事だった。だが、出てくるだけの価値はあるひとときだったわけである。

いろいろな人がいた。45歳以下という規定がある以上、ある程度近い年齢層の人たちであるはずであり、かつ技術士である以上、業種は違えどエンジニアという職業であるはずなのだが、そんな狭さは全く感じなかった。異業種であるということが広さを感じさせた要因の一つのかも知れないが、それよりもやはり個人が魅力的だった。業務のかたわら社会人博士課程に在学中で代表幹事まで務めている人、休日にはボーイスカウトのリーダーをしている人、ものすごく優秀なのに流行りの恋愛ドラマにはまっている人、世界の研究の最先端を担っているながら全然そんな風貌には見えない人、素敵な人達ばかりだった。

そんな人達におだてられて分不相応にも第20期（平成10～11年）の副代表幹事を務めたが、在任中に当時勤めていた会社を辞めて無職となった期間があった。その時も副代表幹事を解任されることもなく、逆に「ずいぶん楽しそうじゃない？」と言われ、本当になんだか楽しくなったことがあった。会社を辞めて抛り所のない気持ちでいたが、言われてみれば私は自由で、思い立った日に旅に出てもしまっても良い身であることに気づかされたのである。有難い一言だった。結局、旅に出ることもなく数ヶ月後に次の職を得てしまったが、その時も「やっぱり楽しそうじゃない？」と言われて大いに笑った。青技懇に参加している私は常に楽しそうだったのかも知れない。

副代表幹事退任後は職場が遠隔地に変わり、さらにその後地方に転居したこともあって、青技懇の活動にはほとんど参加せずに過ごして来てしまった。そんな私だが今年「青年」最後の年齢である。青技懇から青年技術士交流実行委員会へと受け継がれてきた50周年というこの節目の年に、「青年」最後の年を迎えることに青技懇との縁を感じる。心からの感謝の気持ちとともにお祝いを申し上げ、今後のますますの発展を祈念したい。

20期青年技術士懇談会 副代表幹事 渡辺 弘子
(建設部門)



例会等活動一覧

日付	場所	活動内容
昭和 55/9/6	虎ノ門技術士会会議室	講演「超音波ホログラフィとその応用」
昭和 55/10/18	虎ノ門技術士会会議室	講演「望まれる下水道」
昭和 55/11	虎ノ門技術士会会議室	懇談会「コンサルタント制度」
昭和 56/2/28	虎ノ門技術士会会議室	懇談会「技術移転」
昭和 56/7/17	虎ノ門技術士会会議室	懇談会
昭和 56/9	虎ノ門技術士会会議室	研修旅行「ポートピアと有馬温泉」
昭和 56/10/16	虎ノ門技術士会会議室	
昭和 56/12/18	虎ノ門技術士会会議室	忘年会
昭和 57/7/16	虎ノ門技術士会会議室	総会、講演会「開業にあたってのアドバイス」
昭和 57/9/18	虎ノ門技術士会会議室	会長を囲む会
昭和 57/11/3	虎ノ門技術士会会議室	講演「先輩技術士に聞く」
昭和 57/1/28	虎ノ門技術士会会議室	日本技術士会事務局との懇談
昭和 57/11/19	日本エバック研修センター	技術士向けのマイコン講座
昭和 58/1/30 ～31	日本エバック研修センター	技術士養成講座第1回スクーリング
昭和 59/2/17	技術士会会議室	講演「雨水の流出を制御する下水道」
昭和 59/3/16	技術士会会議室	講演「ニューメディアの状況」
昭和 59/4/20	農業土木会館	講演「独立20年の歩み、開業よもやま話」
昭和 59/5/25	渋谷東邦生命ホール	技術特別講演会 「うるおいと緑の町づくり」 「ファイン・セラミックスの未来図」 「先端技術の展望」
昭和 59/6/15	技術士会会議室	総会、会長を囲む会
昭和 59/8/17	技術士会会議室	恒例ビール会
昭和 59/9/21	三菱銀行会議室	講演「内外の経済事情」
昭和 59/10/19	技術士会会議室	講演「望まれるまちづくり技術」
昭和 59/11/16	技術士会会議室	講演「産業用ロボット その虚像と実像」
昭和 59/12/22	新宿 勇駒	忘年会
昭和 60/1/18	三菱銀行会議室	講演「宇宙からの地球観察」
昭和 60/2/15	技術士会会議室	東京 JC（青年会議所）との懇談会
昭和 60/3/15	富士銀行会議室	講演「海外での我が国 CE こぼれ話」
昭和 60/4/19	技術士会会議室	講演「独立への道①」
昭和 60/5/17	技術士会会議室	講演「独立への道②」
昭和 60/6/21	技術士会会議室	総会
	技術士会会議室	会長及び日本技術士会事務局との懇談
昭和 60/8/16	日本工営会議室	恒例ビール会
昭和 60/9/20	技術士会会議室	講演「国際情勢について」
昭和 60/10/18	技術士会会議室	講演「情報システム化計画について」
昭和 60/11/15	技術士会会議室	講演「宇宙から見た地球 その2」
昭和 60/12/21	新宿 信州屋	忘年会
昭和 61/1/27	技術士会会議室	講演「コンピュータ先端技術」
昭和 61/2/21	技術士会会議室	講演「海外での我が国 CE 活動」
昭和 61/3/24	技術士会会議室	講演「文化と科学技術」
昭和 61/4/18	技術士会会議室	懇談会「独立した青年技術士を囲んで」
昭和 61/5/16	森田邸	講演「独立への道」
昭和 61/7/24	技術士会会議室	日本技術士会事務局との懇談
昭和 62/1/21	技術士会会議室	
昭和 62/5/11	技術士会会議室	
昭和 62/6/18	技術士会会議室	
昭和 62/8/18	新宿センタービル会議室	恒例ビール会
昭和 62/9/18	技術士会会議室	講演「青年技術士と健康管理」
昭和 62/11/20	技術士会会議室	懇談会「独立技術士を囲んで」
昭和 62/12/10	新宿センタービル会議室	忘年会
昭和 63/1/27	技術士会会議室	

日付	場所	活動内容
昭和 63/2/25	技術士会会議室	講演「ハイビジョンの将来」
昭和 63/3/18	技術士会会議室	講演「コンピュータの最新技術」
昭和 63/5/18	技術士会会議室	講演「電力貯蔵システムについて」
昭和 63/6	技術士会会議室	総会
昭和 63/9/26	技術士会会議室	講演「AI（人工知能）」
昭和 63/10		講演「ニューバイオテクノロジー」
昭和 63/11/18		
昭和 63/12/9	新宿センタービル会議室	忘年会
昭和 64/1/25	技術士会会議室	講演「株式市場の動向について」
平成 1/2/21	技術士会会議室	講演「産業用繊維資材の市場と動向」
平成 1/3/23	技術士会会議室	
平成 1/4/26	技術士会会議室	講演「マルチメディア・グローバル・ネットワーク」
平成 1/5	技術士会会議室	見学会「NHK 放送センター」
平成 1/6/22	技術士会会議室	総会
平成 1/7/26	技術士会会議室	講演「通信事業の今日と将来展望」
平成 1/9/28	技術士会会議室	
平成 1/10/30	技術士会会議室	
平成 1/11/21	技術士会会議室	講演「地球環境問題の最近の動向」
平成 2/1/23	技術士会会議室	講演「科学技術の将来展望」
平成 2/2/23	技術士会会議室	講演「未来の車についての話題と展望」
平成 2/3/15	技術士会会議室	座談会「先輩の独立技術士を囲んで」
平成 2/4/23	技術士会会議室	講演「超電導の電力への応用」
平成 2/5/24	技術士会会議室	講演「ファジィ制御方式と実システムへの応用」
平成 2/6/20	技術士会会議室	総会
平成 2/7	技術士会会議室	講演「最近の宇宙開発動向について」
平成 2/8/29	新宿センタービル会議室	恒例ビール会
平成 2/9/27	技術士会会議室	講演「フェールセーフと安全技術」
平成 2/10/25	技術士会会議室	講演「人工漁礁と魚の動向」
平成 2/11/20	技術士会会議室	講演「最近の流通業界における戦略情報システム」
平成 2/12/6	新宿センタービル会議室	忘年会
平成 3/1/30	技術士会会議室	講演「産業経済からみた科学技術の展望」
平成 3/2/20	技術士会会議室	見学会「酒造工場」
平成 3/3/28	技術士会会議室	講演「ニジュール国際技術協力体験記」
平成 3/4/24	技術士会会議室	講演「中高年のスポーツと健康」
平成 3/5/23	技術士会会議室	講演「21 世紀を展望した技術開発戦略のあり方」
平成 3/6/26	技術士会会議室	ノウフウ第 1 回
平成 3/7/31	明電舎大崎会館	恒例ビール会
平成 3/8/29	明電舎会議室	講演「NMR で水の構造を科学する」
平成 3/9/25	清水建設	講演「石油開発について」
平成 3/10/23		見学会「東京港連絡橋（仮称）ケーブル工事」
平成 3/12/4	明電舎会議室	忘年会
平成 4/1/23	フジタ会議室	講演「外資系証券からみた今年の株式と景気展望」
平成 4/2/27	フジタ会議室	ノウフウ第 2 回
平成 4/3/24	フジタ会議室	講演「90 年代の地域開発とそのための新しい資金調達手法」
平成 4/4/22		見学会「朝日新聞社」
平成 4/6/25	フジタ社員クラブ	総会、懇親会
平成 4/7/20	清水建設	講演「高レベル放射性廃棄物地層処分に関する研究開発の現状」
平成 4/9/16	メイテック会議室	講演「“状報”“情報”の由来と幕末明治の人物談」
平成 4/10/27	技術士会会議室	ノウフウ第 3 回
平成 4/12/10	フジタ社員クラブ	忘年会
平成 5/1/26	東京ガス	講演「設備管理マッピングシステムの現状と将来」
平成 5/2/18	技術士会会議室	講演「首都圏のごみ問題と埋立地」
平成 5/3/11	技術士会会議室	コーヒーブレイク 第 1 回
平成 5/4/23	フジタ会議室	講演「経営コンサルタントの役割及び業務概要」

日付	場所	活動内容
平成 5/5/19	フジタ会議室	講演「最近の雷予知とその課題」
平成 5/6/22	技術士会会議室	総会、ノウフウ第4回
平成 5/7/23	学生会館分館	恒例ビール会
平成 5/10/27	技術士会会議室	トレーニング「VIVE・LA 戦略マインド」
平成 5/12/15	国際観光会館	忘年会
平成 6/3/17		見学会「書籍物流センター」
平成 6/4/22	日本工営会議室	講演「日本的リエンジニアリングの取組み方・進め方」
平成 6/5/25	機械振興会館	ノウフウ第5回
平成 6/8/30	渋谷すふれあんど	恒例ビアパーティ
平成 6/9/22	技術士会会議室	講演「太陽電池の実例報告」
平成 6/10/20	技術士会会議室	ノウフウ
平成 6/11/25		見学会「森永製菓 鶴見工場」
平成 6/12/26	水道橋 OKD クラブ	忘年会
平成 7/1/24	技術士会会議室	講演「カオスとその応用例」
平成 7/2/22	技術士会会議室	講演「わが国における社会資本整備と技術の発展と今後の研究」
平成 7/3/23	技術士会会議室	講演「生活空間の整備」
平成 7/4/25	技術士会会議室	ノウフウ
平成 7/5/24		見学「川崎市入江崎総合スラッジセンター」
平成 7/6/20	技術士会会議室	総会
平成 7/7/27	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 7/8/31	渋谷すふれあんど	恒例ビアパーティ
平成 7/9/22	技術士会会議室	講演「環境問題と技術」
平成 7/10/20	技術士会会議室	ノウフウ
平成 7/11/21		見学会「帷子川分水路常盤台第3工区」
平成 8/1/25	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 8/2/22	技術士会会議室	講演「PLP（製造物責任予防）」
平成 8/3/21	技術士会会議室	ノウフウ
平成 8/4/24		見学「東芝 府中工場」
平成 8/6/20	技術士会会議室	総会
平成 8/7/17		見学「RC 横浜ビル建設現場」
平成 8/8/30	銀座アサヒビアケラー	恒例ビール会
平成 8/9/24	技術士会会議室	講演「企業経営とイメージ戦略」
平成 8/10/23	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 8/11/21		見学会「東京ガス マッピングシステム TUMSY」
平成 8/12/3	五洋建設	見学会「全天候型自動化施工システム」
平成 8/12/12	六本木 CHACO	忘年会
平成 9/1/23	技術士会会議室	
平成 9/2/20		見学会「東急建設 地下実験室」
平成 9/3/19	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 9/4/23		見学会「新日鐵総合技術センター」
平成 9/5/21	技術士会会議室	講演「薬品情報ネットワークと医療の光と影」
平成 9/6/20	技術士会会議室	総会
平成 9/7/22	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 9/8/28	アルテリーベ	恒例ビアパーティ
平成 9/9/19		見学会「新日鐵総合技術センター」
平成 9/10/24	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 9/11/21	技術士会会議室	講演会「民族性と音楽」
平成 9/12/12	上野バル	忘年会
平成 10/1/23	技術士会会議室	コーヒーブレイク
平成 10/2/20		見学会「出光興産 石炭研究所」
平成 10/3/23	技術士会会議室	講演「人工衛星のはなし」
平成 10/4/22	技術士会草手会議室	コーヒーブレイク
平成 10/5/21		見学会「筑波宇宙センター」
平成 10/6/24	技術士会草手会議室	総会

日付	場所	活動内容
平成 10/7/22	技術士会葺手会議室	コーヒーブレイク
平成 10/8/27	青山 SMOKY	恒例ビアパーティ
平成 10/9/25	技術士会葺手会議室	コーヒーブレイク
平成 10/10/24		見学会「サントリー武蔵野ビール工場」
平成 10/11/24	機械振興会館	講演「建設事業における技術士」
平成 10/12/11	新宿 ザ・ワインバー	忘年会
平成 11/1/20	技術士会葺手会議室	コーヒーブレイク
平成 11/2/26		見学会「オリンパス光学工業 八王子技術開発センター」
平成 11/3/10	技術士会葺手会議室	講演「筋収縮のメカニズム」
平成 11/4/23	技術士会葺手会議室	ノウフウ
平成 11/5/21		見学会「東京都環境科学研究所」

備考) 表中の空欄は、根拠とした資料からは開催場所、開催内容が確認できなかったもの。

11 から 20 期までの幹事

11 期【1980 年(昭和 55)7 月～1982 年(昭和 57)6 月】	
中村 喜平 (生産管理)	秋元 勝 (衛生工学)
大塚 実 (機械)	尾崎 忠正 (水道)
丸岡 大祐 (林業)	内田 龍一郎 (建設)
12 期【1982 年(昭和 57)7 月～1984 年(昭和 59)6 月】	
大塚 実 (機械)	
鷹巣 征行 (機械)	
藤森 正法 (水道)	蓑田 正彦 (情報処理)
若鳥 陸夫 (電気)	高橋 弘司 (機械)
13 期【1984 年(昭和 59)7 月～1986 年(昭和 61)6 月】	
藤森 正法 (水道)	後藤 信一 (情報処理)
北川 善久 (水道)	中尾 保孝 (機械)
阿部 秀人 (建設)	大橋南 海子 (建設)
伊東 徹 (建設)	神保 吉次 (水道)
14 期【1986 年(昭和 61)7 月～1988 年(昭和 63)6 月】	
北川 善久 (水道)	高橋 保夫 (建設)
和久 昭正 (建設)	稲垣 青生 (建設)
三ヶ森	駒井
15 期【1988 年(昭和 63)7 月～1990 年(平成 2)6 月】	
和久 昭正 (建設)	高橋 保弘 (情報工学)
福島 和伸 (経営工学)	津倉 洋 (水道)
埴原 強 (建設)	渡部 翼 (応用理学)
若井 一顕 (電気)	熊野 紘征 (建設)
水谷 敏彦 (建設)	
16 期【1990 年(平成 2)7 月～1992 年(平成 4)6 月】	
水谷 敏彦 (建設)	緒方 輝優 (電気電子、総監)
津倉 洋 (上下水道)	小林 彰 (衛生工学)
岡 孝夫 (建設/情報工学/総監)	新井 健次 (水産)
佐藤 国仁 (機械/総監)	村川 賢司 (経営工学、総監)
伊達 知見 (上下水道)	平井 均 (情報工学、総監)
17 期【1992 年(平成 4)7 月～1994 年(平成 6)6 月】	
岡 孝夫 (建設、情報工学、総監)	小林 彰 (衛生工学)
伊藤 由紀美 (情報工学)	深見 史郎 (建設)
岡井 政彦 (電気電子)	福田 遵 (電気電子、総監)
近藤 光夫 (機械)	平井 均 (情報工学、総監)
小川 康夫 (建設)	木戸 賀晃 (機械)

18期【1994年(平成6)7月～1996年(平成8)6月】	
福田 遵 (電気電子/総監)	近藤 光夫 (機械)
伊達 知見 (上下水道)	山本 弘明 (建設)
三上 靖彦 (建設)	深見 史郎 (建設)
杉内 正弘 (建設/総監)	渡邊 和樹 (航空・宇宙)
北野 粒 (電気電子)	宝田 元康 (建設)
伊藤 由紀美 (情報工学)	
19期【1996年(平成8)7月～1998年(平成10)6月】	
渡辺 和樹 (航空・宇宙)	村田 雅尚 (電気電子)
笹口 裕昭 (金属、建設、総監)	犬伏 裕之 (情報工学)
浦辺 修一 (金属、総監)	西江 嘉晃 (電気電子)
杉内 正弘 (建設、総監)	杉 正一 (建設)
石井 聡 (電気電子)	嶋田 弘僧 (情報工学、総監)
20期A【1998年(平成10)7月～1999年(平成11)6月】	
石井 聡 (電気電子)	杉 正一 (建設)
犬伏 裕之 (情報工学)	杉内 正弘 (建設/総監)
浦辺 修一 (金属、総監)	西江 嘉晃 (電気電子)
村田 雅尚 (電気電子)	嶋田 弘僧 (情報工学/総監)
西江 善晃 (電気電子)	田中 柔 (建設、応用理学、総監)
渡辺 弘子 (建設)	渡辺 和樹 (航空・宇宙)
増田 千晴 (情報工学)	中田 光治 (建設、上下水道、農業、環境、総監)
國弘 直信 (建設、総監)	土橋 佳代 (建設、総監・北陸)
20期B【1999年(平成11)7月～2000年(平成12)6月】	
石井 聡 (電気電子)	横尾 純郎 (化学)
渡辺 弘子 (建設)	北尾 由之 (情報工学)
豊原 大樹 (衛生工学)	小林 進 (情報工学、総監)
青山 芳之 (環境、建設、衛生工学、総監)	村田 雅尚 (電気電子)
坂口 修司 (情報工学、総監)	北尾 由之 (情報工学)
正司 康雅 (機械、総監)	田越 宏孝 (情報工学)
委員補佐：川手 隆義(機械)	委員補佐：松村 有記 (生物)

第 3 章

産声をあげた青年技術士交流実行委員会

第3章 産声をあげた青年技術士交流実行委員会

1 ～懇談会から実行委員会への橋渡し

23期46年間に及んだ青技懇は幕を閉じ、2005年(平成17)青年技術士交流実行委員会として生まれ変わる。

それに先立つ2000年(平成12)には、規約の改正が承認され、青技懇代表は「代表幹事」から「委員長」となり、それまで非公式だった委員補佐(正会員暦1年未満の技術士、技術士補、修習技術者)も規約に盛り込まれ、活動の活性化に寄与することとなった。

全国の青年技術士支部組織との交流が始まったのもこの頃であり2004年(平成16)北海道全国大会における青年分科会立ち上げのきっかけとなった。

この後、2005年(平成17)福岡全国大会、2006年(平成18)東京全国大会、2007年(平成19)福井全国大会、2008年(平成20)松江全国大会と青年の分科会、支部交流会議、懇親会と支部交流は継続し、年々活発化している。

2003(平成15)年10月インドネシアで開催されたCAFE0-21に参加し、参加各国の若手技術者会議であるYEAPEOに出席し、ASEANの若手技術者との交流が始まった。近年の活動の柱となった、国際交流の実績は表-1のとおりである。

表-1 国際交流一覧

年	種 類	交 流 国/開 催 国
2003年(平成15)	ASEAN 交流	インドネシア
	合同視察	香港(中国山峡ダム建設現場等)
2004年(平成16)	ASEAN 交流	ミャンマー
2005年(平成17)	ASEAN 交流	ラオス
	日韓会議	(ソウル開催)分科会、サッカー親善試合
	来日交流	マレーシア
2006年(平成18)	ASEAN 交流	マレーシア
	来日交流	オーストラリア
	日韓会議	(沖縄開催)分科会、サッカー親善試合
2007年(平成19)	ASEAN 交流	フィリピン
	二カ国間交流	オーストラリア
	日韓会議	(全州開催)分科会、サッカー親善試合
	来日交流	香港
2008年(平成20)	ASEAN 交流	タイ
	来日交流	オーストラリア
	日韓会議	(新潟開催)分科会、サッカー親善試合
	二カ国間交流	香港

2002年(平成14)以降、活動年鑑を製作しており、活動内容をまとめ6月時の拡大運営委員会(総会)時に配布している。

2008年(平成20)には、北海道青年技術士交流実行委員会のテクノツーリズム構想により、各支部のテクノスポットの情報共有から始まり、活動の記録や各種活動の写真などデータをサーバーに保存することで、運営の効率化をはかり、スタッフの若返り・入替わりを余儀なくされる青年委員会内の情報の引継ぎに挑戦している。

その他ITツールの有効利用として、ホームページはもとより、目的別ブログの開設、skypなどを利用したネットミーティングの開催を実施している。

2001年(平成13)ノーベル賞有力候補の神原秀記氏に講演会を端緒に、2003年(平成15)、2004年(平成16)にはノーベル賞級の学識者を呼び公開シンポジウムを開催している。下記に概要を示す。

【公開シンポジウム】

日時：2003年(平成15)5月17日(土)

場所：発明会館ホール

■特別講演：「これから日本の研究開発力～技術力の維持発展のために日本の若手技術者は何を考え、何をなすべきか」

芝浦工業大学学長 江崎玲於奈博士 (1973年ノーベル物理学賞受賞)

■パネル討論

司会：石井聡氏、パネリスト：坂本恵一氏、新里達也氏、宮入賢一郎氏、矢田美恵子氏

【特別公開シンポジウム】

日時：2004年(平成16)5月15日(土)

場所：発明会館ホール

■特別講演：「日本経済再生のキーワード：国産技術を育て、活かすには、私たち技術者を何を考え、何にチャレンジしていくべきか」

芝浦工業大学学長 坂村健博士 (1973年ノーベル物理学賞受賞)

■パネル討論

「目標(テーマ)を見つけるには」、「発案から実現へ向けて」をテーマに下記のパネリストによる討論を行った。

コーディネータ：安田晃氏

パネリスト：坂村健氏、犬伏裕之氏、石井一夫氏、平野輝美氏

参考資料：「技術士」、「活動年鑑」

活動の軌跡① 青技懇から実行委員会へ

懇談会（調査委員会）から実行委員会へ、この移行は2005年（平成17）6月のことでした。これは単なる名称の変更ではなく、日本技術士会における青年層の位置付けが変化して調査委員会にそぐわなくなり脱皮のように変化したのだと考えています。

そもそも青技懇は自然発生的に発足したものが継承されてきたものだと思います。そのため目的志向というよりも懇談というものが主眼とされ「技術士会における若年層のオアシス」として生まれ、継続性を持ったとき「調査委員会」という枠組みとして認知されたのではないのでしょうか。

調査委員会という位置付けは微妙なものです。現在、調査委員会という枠組みは存在しなくなっていますが、基本的に2年間を活動期間として「技術士会としての調査活動」を行うのであり、言い換えれば2年ごとに存在を問われる立場でありました。

その分、目的志向という面は薄く、どちらかと言えば関東地方在住者の懇親の場を提供する存在であり、満45歳未満の正会員、準会員すべてを懇談会の「会員」と認識する「組織化されていない組織」でありました。そのような組織ですから過去何回も「存在を問われる」場面があり、消滅の危機に至ったこともありました。1990年代頃は毎月の月例会の他には技術士試験の主任監督員の調達・動員を行うことで会の中での存在感を保っていたのでした。

2000年（平成12）に技術士法が改正され、技術士自体の枠組みが変化しました。より間口を広げ、CEからPEへという変化は技術士会にとっても若年層を意識せざるを得ない変化であり、青技懇としての存亡の危機からの立ち直りとも相まって調査委員会からの脱皮を図ろうというのが現実的な課題となってきたのですが、実際の脱皮はなかなか容易なものではありませんでした。

青技懇から実行委員会に移行した時期の委員長そして活動度を思い起こしてみると表1のようなものではなかったでしょうか。

表-1 移行期の委員長、活動度

			委員長	支部交流	国際交流	イベント	他委員会参画
実行委員会	2008.06 ~	H20	田村裕美				
実行委員会	2007.06 ~ 2008.06	H19	時合健生				
実行委員会	2006.06 ~ 2007.06	H18	野村 貢				
実行委員会	2005.12 ~ 2006.06	H17	野村 貢				
	2005.06 ~ 2005.12	H17	石井一夫				
青技懇	2004.06 ~ 2005.06	H16	野村 貢				
青技懇	2003.06 ~ 2004.06	H15	時合健生				
青技懇	2002.06 ~ 2003.06	H14	時合健生				

活動度というのは「実施できた」あるいは前年度より進歩したといった感覚的な指標ですが、青技懇最後の3年間で急激な変化（＝活動度のUP）をしていると思います。実際、この時期は青技懇としての脱皮を意識し、自身のプレゼンスを示す機会はすべて活かすというのがテーマでした。この頃からの活動を追ってみると次のようなものです（多くを活動報告、例会議事録に拠っています）。

(1) 支部交流

それまで本支部独自に活動し、三都として東京・中部・近畿で時折り交流していたので

すが、2003年の全国大会（大阪）に東京からも委員を派遣し、青年グループとしての会を催して頂きました。これを手応えとして本部から支部行事への委員派遣などを通じ、2004年の札幌大会では「青年技術士」単独での分科会を開催することができました。以後、この流れは2006年に全支部代表を本部委員として実行委員会に参画して頂くという流れに繋がり、今に至っています。現在ではすべての本支部で本支部連携2代目以降の代表が就任しており、本支部連携の流れは定着したといえます。

(2) 国際交流

国際交流は青年技術士の大きな希望のひとつであるのですが、会として具体化する方法に悩んでいました。2002年に故高城技術士よりASEANのエンジニアリング会議CAFE0と青年委員会YEAPE0の存在をご教示頂き、翌年から調査派遣を行いました。実行委員会移行後は委員会テーマとして取り入れられるようになり、派遣の流れが定着しました。また、2004年に日韓技術士会議に調査派遣を行い、韓国青年技術士と交流チャンネルを構築、双方日韓委員会の協力も得て、2005年の全州会議以降、継続的に青年分科会と交流事業（青年サッカー大会）を開催し続けています。



図1. 日韓会議（全州）にて交流

2006年にはオーストラリア青年技術士との交流チャンネルが構築され、相互訪問を果たすなど「青年」をキーワードとした国際交流はさまざまに拡大し続けています。

2006年にはオーストラリア青年技術士との交流チャンネルが構築され、相互訪問を果たすなど「青年」をキーワードとした国際交流はさまざまに拡大し続けています。

(3) イベント

研鑽事業としてのイベントは、長く例会以外なかったのですが、2003年から2年間にわたりノーベル賞級の学識者を呼び、シンポジウムを開催するというそれまでの技術士会のイベントの枠を超える試みを行いました。2003年には江崎玲於奈博士、翌年は坂村健博士をお招きしイベントは成功しました。このイベントにはプレゼンスという意味合いが濃いことから実行委員会移行後の体力増強期には実施無理として中止していましたが、ここに至り青年委員会50周年という同規模以上のイベントを開催できるようになりました。

(4) 他委員会参画

技術士会が青年層を意識するとき、その窓口は青年委員会ということになります。2002年までは修習技術者支援実行委員会への参画が主眼であったものが、以降急減に他委員会への参画要請が増えてきます。ビジョン21をはじめ、会員拡大・活性化特別委員会そして政策委員会を通じてのロゴマーク選定など実行委員会への改組は確実に青年委員会（＝若年層）のプレゼンスを押し上げています。

いま、青年技術士交流実行委員会の存在感を疑う人はいないでしょう。しかしそのプレゼンスは時代と共に変わるものです。常に自分たちのプレゼンスを意識して「固くない」組織に作り替えていくこと、そうあって欲しいと願っています。

第23代青年技術士懇談会委員長／第2代青年技術士交流実行委員会委員長
野村 貢（建設部門、総合技術監理部門）

活動の軌跡② 支部交流及び国際交流WGの歩み

1959年に調査委員会の下部組織としてその産声を上げた青年技術士懇談会が、2005年に実行委員会へ移行し、今年満50歳を迎えることが出来たことを心よりお喜び申し上げます。私は2001年より青年技術士懇談会（青技懇）の活動に参加し2003年第22B期より3年間ほど委員として活動に従事いたしました。その当時は時合委員長を中心に1. 国際交流グループ 2. 出版企画グループ 3. 支部交流グループ兼支部連絡窓口 4. 特別シンポジウム実行委員会 5. 広報・インターネット関連グループ 6. 技術士試験業務グループ 7. 内務グループなどの活動組織を立ち上げ、日本全国の青年技術士を巻き込んだ活発な活動を実施しておりました。その中で担当していた「国際交流グループ及び支部交流グループ」の活動を以下に紹介いたします。

1. 国際交流グループ

このWGの目的は、他国の若手技術者が積極的な海外活動を行っている中で（特に香港などのアジア諸国）、日本の青年技術者もそれらに積極的に参加していくべきではないかという事で発足したグループでした。日本の若手技術者として、どのような形で海外活動に参加していくかを模索している中で、故高城さんの貴重なアドバイスもあり、ASEAN加盟国の若手技術者及び香港技術士会の若手技術者との国際交流活動を初めて具体的に行うことになったのでした。

1) CAFE0-21への参加

CAFE0-21とは、ASEAN加盟国による国際的な技術交流会で、21st-conference of Engineering Organizastionsの略で、毎年、各加盟国の持ち回りで開催されており、この年はインドネシアが幹事国でした。我々はCAFE0の中の若手技術者部会である「YEAFE0」に参加することにしました。

オープニングセレモニーでは、マハティールマレーシア首相（当時）を招いて開催演説が行われ、このCAFE0が国を挙げての重要な位置づけであることを認識した瞬間でもありました。

YAFE0はアジアの10カ国で構成され、日本は初参加ということもあり、オブザーバーという立場での参加となりました。現在もその立場は変わっていないようです。

いずれにせよ2003年のCAFE0-21に参加して以来、今日まで継続参加されているということは、国際交流WGの方向性を導いて頂いた故高城さんもきっと喜ばれていることと思います。又、現在は日韓の若手技術者との交流も活発に行われていることは、隣国韓国との技術者交流の発展に貢献することになるでしょう。

今後は、アジアだけではなく、その活動が世界へと広がっていくことを期待いたします。



写真2 左から桜井、山田、前田、高城、出崎

2. 支部交流グループ

このWGは、各地区の若手技術者・修習技術者との交流を通して、合同例会・合同特別企画開催並びに行事連絡等をスムーズ且つ活発に実施することを目的としたグループでした。その為には、まず各地区の青技懇と同様に活動している組織を把握することが課題となりました。そこで我々が企画した特別シンポジウム「江崎玲於奈博士の講演」に、主だった地区の関係者を招き、第1回支部交流会を開催し実態の把握をしました。

表－1 各地区の現状（2003年当時）

地区	名称	設立年	位置づけ
北海道	青年技術士協議会	1989年	北海道技術士センター下部組織
東北	青年技術士懇談会	1997年	支部下部組織
中部	中部青年技術士会	1986年	支部下部組織
近畿	近畿青年技術士懇談会	1991年	独立組織
北陸	青年技術士懇談会	1999年	支部下部組織
中国	組織無し	—	—
九州	福岡青年技術士ネットワーク（fsgNet）	不明	独立組織
本部	青年技術士懇談会	1959年	日本技術士会調査委員会下部組織

表－1は、2003年当時の各地区の実態をまとめたものです。これをきっかけに各地区における現状と課題の認識を共有することができ、2004年札幌で開かれた青年技術士単独での分科会開催へと繋がっていくことと成ります。さらに2005年の実行委員会への移行に際して、現在の全国的な組織体制が構築され、相互交流が活発に行われる様になったのです。

3) 今後の展望

満50歳を迎えた青年委員会（旧青技懇）は、やっと全国に散らばっている青年技術士のネットワークを構築したに過ぎません。その真価は、社会が抱える課題に対してこのネットワークを活用し如何に具体的に貢献できるかという事ではないでしょうか？その時代時代で活躍された若き諸先輩方々のスピリッツが脈々と受け継がれていることを確信すると共に、同じ「志」を持つ同士が集う青年技術士交流実行委員会の益々のご活躍を期待いたします。

22期青年技術士懇談会 桜井 裕一
（建設部門）

2 回想

21 期の活動とエピソード

青年技術士交流実行委員会（青年技術士懇談会）50 周年おめでとうございます。
私が青技懇委員長だった 21 期（2000 年 6 月－2002 年 6 月）は、技術士法改正があったり、世間的にも世界同時多発テロや小泉内閣発足など比較的動きの大きな時代でありました。その当時を懐かしく思い出しつつ、エピソード等を披露したいと思います。

当時の活動の柱は大きく 3 つ、例会活動、修習技術者支援、試験業務支援でした。例会活動の中で印象深いのは、2000 年 10 月の「三都物語」企画と、2001 年 1 月の神原秀紀氏の講演会です。「三都物語」企画は、中部青年技術士会、近畿青年技術士懇談会と合同で、名古屋で開催されました。お互いの活動内容の紹介だけでなく、活動のノウハウ等にまで踏込んだ意義深い例会でした。神原氏の講演会は、高速でゲノム解析できる技術を開発した氏の技術的な説明だけでなく、「困難は人を育てる」というサブテーマで、研究開発を通して得られた教訓を話して頂きました。神原氏はノーベル賞の期待がかかっている一人でもあります。この講演会をきっかけにノーベル賞受賞者を招く企画を開始致しました。任期中の実現はなりませんでした。江崎玲於奈氏招聘の道筋をつけることができました。

修習技術者支援は、法改正の影響はありましたが修習技術者支援実行委員会と一緒に修習技術者向けの行事の回数を増やして行くことができました。

試験業務支援は、青技懇が試験監督や受付業務担当者を集めるというもので、青技懇活動の中で最も困難な業務であったかと思います。加えて、受験者の増加に伴い、必要な人数も増えて行き、従来方法で集めるのが限界となっておりました。そこで、試験センターと募集方法等について話合いや試行を重ね、最終的には試験センターで募集をして頂く方法と致しました。途中、応募者の FAX を青技懇で集計した際には、担当が一週間程度仕事にならなかったということで、迷惑をかけてしまいました。

その他、副代表幹事だった 20B 期に諸々の経緯で青技懇の規約変更を余儀なくされ、2000 年 6 月の総会で規約の改正が承認されました。それに伴い、青技懇代表も代表幹事から委員長となり、私が初代委員長に就任致しました。また、委員数の増加や、非公式だった委員補佐も規約に盛り込み、委員選任の自由度を増しました。

第 21 代青年技術士懇談会委員長 北尾 由之
(情報工学部門)



青年委員会活動の思い出と提言

1. 50周年記念を迎えるにあたって

日本技術士会の青年部が創設されて50周年を迎えます。今まで時代に即した数多の活動が展開されてきたのであると思います。この度、50周年を迎えるにあたって携わってきた印象深い思い出と得られたこと並びにこれからの提言について述べます。

2. 青年委員会の活動の思い出

平成9年～平成16年と平成19年～20年の間に青年委員会のスタッフとして活動を行いました。その間、会員諸氏並びに技術士会内外の関係者並びにお世話になった方々にこの場をかりて御礼を申し上げます。

いくつかの思い出があり、その中でも印象深い思い出があります。例えば、

- (1) 江崎玲於奈博士やトロンの坂村健教授（東京大学）を招待したシンポジウムの開催
- (2) 定期的な本支部交流会の開催と各支部青年委員会の立ち上げ
- (3) 青年技術士懇談会を技術士会組織としての青年技術士交流実行委員会の立ち上げに
関与できたこと
- (4) 本格的な青年部の国際交流実施に端緒をつけたこと等です。そして、何よりの思い出としては、青年委員会活動で知り合えた国内外の友人が得られたことです。具体的には、会務を離れての温泉ゴルフ合宿・勉強会や家族でのお付き合い、気の合う友人との本の執筆や出版、国外においては国境を越えた家族ぐるみでのお付き合い。一言で言うと、人生が豊かになりました。これも一重に関係して頂いたスタッフ・事務局や国内外の諸団体の皆様のお陰であり、重ねて御礼を申し上げます。



3. これからの提言

海外にいくとマンガ、アニメが世界中に日本文化と共に日本精神をともなって受け入れられています。また、日本のパスポートが公的な場面で如何に強いのか、信頼されているかは周知の通りです。それは、明治維新、戦前の飛躍、戦後の復興と日本人、特に日本の技術や技術者が誠実に真面目に頑張ったお陰です。確実に世界で過去も今も評価されているからです。

そこで、日本の技術者が今後国際社会の中で更に存在感を發揮し、新しい時代を提言し作り上げる時代が来ていると思っています。従って、日本の技術者団体の窓口となる日本技術士会、その中でも青年部である青年技術士交流実行委員会が、今までの国内外の活動を元に、会員諸氏は元より国内外の技術者や一般民間人に、これからの未来像について考えるヒントや道標（マイルストーン）を提供して頂きたいと思います。青年技術士交流実行委員会を影ながら応援していきたいと思っています。

第22代青年技術士懇談会委員長／第3代青年技術士交流実行委員会委員長
時合 健生（化学部門）

3 インタビュー 小松 秀次(こまつ しゅうじ)

1963年 兵庫県生まれ
1985年 東京農業大学農学部卒業
株式会社石勝エクステリア入社
2002年 技術士 建設部門合格

.....
—2002年の青年技術士懇談会（以下、青技懇）はどんな時代だったのでしょうか。

建設不況の真っ只中でした。企業のリストラも多かったし、会社がなくなっても自立していけるように技術士を取得したという人が多かったですね。

ただ、不況でしたが、バブル崩壊から復活しようという意気込んでいた時代でもありました。真の実力が試される時代になったと実感した記憶があります。

青技懇では、当時いち早く最新のノートPCなどのITツールを持って来る人が見られました。例会はパワーポイントを使い、委員の相互連絡はメールリストにて行っていました。今では当たり前ですが、当時としては世間より早かったと思います。

青技懇で覚えたことや最新情報を会社や他の活動に活用し重宝しました。特にプレゼン能力や質問力が向上したと思います。

—青技懇にはどのような経緯で入られたのですか。

2002年に例会へ参加し始め、江崎玲於奈博士をお招きした特別シンポジウムのスタッフになったのがきっかけです。2003年に正式に委員になり同時に副委員長を務めました。

メンバーはバイタリティーのあるプロフェッショナルの集団と言った感じでした。委員になる人は交流を目的に人脈を広げるために来ていた人が多かったと思います。

—その頃はどのような運営方法でしたか。

例会は月例幹事を決めてしまって、内容は幹事任せでした。幹事のそれぞれが様々な人脈を持っていましたので、それを活かした内容で開催していました。ほとんどが私の専門分野（建設）以外の内容でありましたが、技術者としての基本的な考え方は皆同じであり、部門を越えてガチンコ勝負をしていたような気がします。（笑）

—支部交流が活性化された頃だと聞いていますが。

2002年に桜井・野村・時合委員の活躍で全国の青年組織と連絡を取り合いました。

第1回特別シンポジウムの時、各支部との連絡協議会を開催することが出来ました。これが組織的な全国の支部交流につながり、2004年の全国大会（北海道）で青年の分科会を立ち上げるきっかけになりました。

—2人の委員長の女房役を務めた訳ですが、何か思い出はありますか。

野村委員長と時合委員長は、気力・体力・知力、三拍子そろったスーパーマン的なリーダーでしたから、自分は裏方に徹していました。ボランティアな組織ですから当然人によ

って参加の意気込みに温度差があります。各委員、委員補佐の目的や個性を見て、その温度差を埋めたり、なるべく多くのメンバーに参加してもらうため、得意分野別に役割を調整したり、常連だけが集まる閉鎖的な会にならないよう開かれた会の運営を心掛けていました。具体的には、例会では常に新しく参加した人と話すようにして、青年委員会の敷居を下げることを考えていました。あとは飲ミニケーションです。

—思い出して、苦労したことはありますか。

一身上の都合で3ヶ月ほど、音信不通になった時期がありました。久しぶりに会った野村委員長から「生きてたか〜」と笑顔で言われたことを覚えています。

そんな状況の時でも暗黙の信頼関係があったような気がします。楽しい時もつらい時もまさに阿吽の呼吸で運営していました。

—青技懇で得たものはありますか。

情熱や思いが人や組織を動かすよい循環をもたらすこと。動かなければ何も変わらないことを学びました。

ボランティア組織の難しさ、面白さがとても勉強になりました。また常に「楽しく」なければいけないと思いながら活動していました。この場合の「楽しさ」とは、「やりがい」であり、委員会並びに構成する個人の「存在価値」のようなものです。

—これからの青年技術士交流実行委員会にアドバイスをお願いします。

「継続は力なり」いつの時代も変わらない、変わってはいけない技術者の志しを受け継いでほしい。委員会の運営においては、「頑張った人が得はしないまでも、損はしない」仕組みが大切です。メールでのコミュニケーションは、万能ではありません。定期的にフェイス to フェイスの交流を通して円滑な委員会運営を目指してください。

メンバー相互の信頼関係はもちろんのこと、技術士会事務局や関係組織との信頼関係の維持向上に努めるとよいと思います。



インタビュー場所：日本技術士会 葺手第二ビル

インタビューア：田村裕美

例会等活動一覧

日付	場所	活動内容
平成 11/6/26	江戸川区総合区民ホール	総会
平成 11/7/16	技術士会茸手会議室	コーヒーブレイク
平成 11/8/26	赤坂 WINDS	恒例ビアパーティ
平成 11/9/24	技術士会茸手会議室	講演「生物神経系で行われる情報処理エンジニアの視点から」
平成 11/10/15		見学会「千駄ヶ谷キャドセンター」
平成 11/11/19	技術士会茸手会議室	講演「生物（特に苔植物）固定化技術史とその展望」
平成 11/12/3	新宿パンチェット	忘年会
平成 12/1/28	技術士会茸手会議室	講演「KT 法 SA（状況分析）」
平成 12/2/19	機械振興会館	講演「技術士の理想像」
平成 12/3/17		見学会「運輸省港湾技術研究所」
平成 12/4/21	技術士会茸手会議室	コーヒーブレイク
平成 12/5/26		見学会「資源環境技術総合研究所」
平成 12/7/19	技術士会茸手会議室	ノウフウ
平成 12/9/15		見学会「横浜市環境事業局金沢工場」
平成 12/10/7	名古屋市	合同例会（中部青技懇、近畿青技懇）
平成 12/11/10		見学会「日本 IBM 大和事業所施設」
平成 12/12/1	新宿 Bella, Bella	忘年会
平成 13/1/20	機械振興会館	講演「ゲノム工学における最新技術」
平成 13/2/17	機械振興会館	技術士補による例会
平成 13/3/23	技術士会茸手会議室	講演「環境コンサルタント業務の現状と今後の方向性」
平成 13/4/20	技術士会茸手会議室	講演「BOSE 社の音響技術とアプリケーション技術」
平成 13/5/16		見学会「ビオパーク」と交流会「環境市民団体 霞ヶ浦市民協会」
平成 13/6/30	江戸川区総合区民ホール	総会
平成 13/7/13	技術士会茸手会議室	ノウフウ
平成 13/8/23	新宿 HUB	恒例ビアパーティ
平成 13/9/15	技術士会茸手会議室	講演「金（GOLD）のはなし」
平成 13/10/26	技術士会茸手会議室	講演「バイオベンチャー支援の現場」
平成 13/11/30	技術士会茸手会議室	講演「日本 IBM の環境経営」「プロジェクト管理技術と DFD 技法」
平成 13/12/15	技術士会茸手会議室	講演「ロボティクスの最新動向」、忘年会
平成 14/1/18	技術士会茸手会議室	講演「最近の産業機械の話題～大容量サーボモータの活用」
平成 14/2/23	機械振興会館	技術士補・修習技術者のための例会
平成 14/3/29	技術士会茸手会議室	講演「生物多様性と自然史博物館の役割」
平成 14/4/19	技術士会茸手会議室	講演「企業ベンチャー」
平成 14/5/25		見学会「横浜市環境事業局鶴見工場」
平成 14/6/29	技術士会茸手会議室	総会
平成 14/7/19	技術士会茸手会議室	ノウフウ
平成 14/8/29	新宿 HUB	恒例ビアパーティ
平成 14/9/27	技術士会茸手会議室	コーヒーブレイク
平成 14/10/26		見学会「つくば市 地図と測量の科学館」
平成 14/11/29	技術士会茸手会議室	講演「昨今の温暖化に関する諸問題とこれから技術者に望まれること」、「緑のあるまちづくりと諸問題」
平成 14/11/16 ～17		修習技術者研修セミナー共催
平成 14/12/7	機械振興会館 銀座シェスタ	活動報告会、忘年会
平成 15/1/17	技術士会茸手会議室	講演「公認会計士が語る技術者が知っておきたい税務会計」
平成 15/3/1	技術士会茸手会議室	修習技術者例会
平成 15/3/31	技術士会茸手会議室	講演「技術者のメンタルヘルス」
平成 15/4/25	技術士会茸手会議室	講演「技術士大いに語る」
平成 15/5/17	発明会館ホール	公開シンポジウム
平成 15/6/28	建設技術研究所会議室	総会
平成 15/7/18	技術士会茸手会議室	ノウフウ
平成 15/9/27		ファミリー見学会「地質標本館」
平成 15/10/24	技術士会茸手会議室	講演 環境関連

日付	場所	活動内容
平成 15/11/7	技術士会茸手会議室	講演 管理職の部下教育
平成 15/12/20	技術士会茸手会議室	中間報告会、忘年会
平成 16/1/23	技術士会茸手会議室	講演「労働安全コンサルタントから見た最近の労働安全マネジメントについて」
平成 16/2/23		見学会「雪印乳業 横浜チーズ工場」
平成 16/4/16		見学会「海洋科学技術センター」
平成 16/4/24	技術士会茸手会議室	委員補佐企画例会
平成 16/5/15	発明会館	特別公開シンポジウム
平成 16/6/26	技術士会茸手会議室	総会
平成 16/7/17	技術士会茸手会議室	講演会「技術士に足りないもの」
平成 16/8/8	新宿 HUB	恒例ビアパーティ
平成 16/9/18		アンケートに見る修習技術者の実態
平成 16/10/29	技術士会茸手会議室	講演会「これから必要とされるエンジニアとは？ノウハウを残す上での心得」
平成 16/11/27 ～28	リフレフォーラム	修習技術者研修セミナー共催
平成 16/12/18	建設技術研究所会議室	中間報告会、忘年会
平成 17/1/28	技術士会茸手会議室	講演「技術者が知っていないと知らない法律」
平成 17/2/19		見学会「日本科学未来館」
平成 17/3/19	技術士会茸手会議室	一次試験合格者歓迎会
平成 17/4/15		見学会「宇宙航空研究開発機構(JAXA)」
平成 17/7/8	技術士会茸手会議室	勉強会「バランススコアカード概説」
平成 17/6		総会
平成 17/8/7	プティフ	恒例ビア・パーティ
平成 18/1/28	技術士会茸手会議室	海外交流成果発表会
平成 18/2/1		見学会「造幣局 東京支店」
平成 18/3/4	技術士会茸手会議室	委員補佐企画例会
平成 18/4/10	技術士会茸手会議室	勉強会「技術者の国際会議におけるプレゼンテーション」
平成 18/6/25	建設技術研究所会議室	総会
平成 18/8/6	新宿 SOL	恒例ビアパーティ
平成 18/9/2	技術士会茸手会議室	勉強会「国際交流」／交流会「技術士と話そう」
平成 18/10/20		見学会「情報管理データセンター」
平成 19/1/20	建設技術研究所会議室	海外成果交流成果発表会
平成 19/3/3	技術士会茸手会議室	委員補佐企画例会
平成 19/4/14		見学会「八景島シーパラダイス」
平成 19/5/19		見学会「アサヒビール茨城工場」
平成 19/7/7	技術士会茸手会議室	新委員による講演会①
平成 19/8/5	京王アヒスカガーデン	恒例ビアパーティ
平成 19/9/22	技術士会茸手会議室	新委員による講演会②
平成 19/11/3	技術士会茸手会議室	香港若手技術者との国際交流
平成 19/11/17 ～18		修習技術者研修セミナー共催
平成 19/12/22	技術士会茸手会議室	海外成果交流成果発表会／参加型セミナー
平成 20/1/19	技術士会茸手会議室	講演「ワークライフバランス」
平成 20/2/15	技術士会茸手会議室	講演「博物館・科学館の出前講座に学ぶ」
平成 20/3/8	技術士会茸手会議室	勉強会「若手技術者・修習技術者キャリアアップセミナー」
平成 20/3/22	技術士会茸手会議室	講演「事例に学ぶ技術者倫理」
平成 20/4/5		フットサル交流会／花見会
平成 20/4/26	技術士会茸手会議室	講演「セレンディピティ」
平成 20/5/17	技術士会茸手会議室	講演「大学院と社会人教育」
平成 20/5/31	技術士会茸手会議室	講演「技術者のための国際マナー」
平成 20/6	技術士会茸手会議室	総会
平成 20/7/12	技術士会茸手会議室	技術者倫理講座共催
平成 20/7/19	川崎大師フットサルコート	フットサル交流会

日付	場所	活動内容
平成 20/8/3	新宿ライオン	恒例ビアパーティ
平成 20/8/9	高崎市凶南フットサルコート	北陸青年支部合同フットサル練習会
平成 20/9/6	柏市	サッカー練習例会
平成 20/9/20	技術士会葺手会議室	勉強会「プレゼンテーションコンテスト」
平成 20/10/4	新宿御苑	樹木医による講演散策ツアー
平成 20/10/31	技術士会葺手会議室	全国大会報告会
平成 20/11/15 ～16	大橋会館	修習技術者研修セミナー共催
平成 20/12/20	技術士会葺手会議室	中間報告会／国際交流成果発表会／忘年会
平成 21/1/17	技術士会葺手会議室	勉強会「減災カルタづくり」

備考) 表中の空欄は、根拠とした資料からは開催場所、開催内容が確認できなかったもの。

21 期からの委員、委員補佐

21 期 A 【2000 年(平成 12)7 月～2001 年(平成 13)6 月】	
北尾 由之 (情報工学)	新里 達也 (建設、農業、森林、環境、総監)
坂口 修司 (情報工学、総監)	田越 宏孝 (情報工学)
豊原 大樹 (衛生工学)	飯塚 洋人 (生物工学)
安藤 秀樹 (情報工学)	櫻井 重英 (建設)
曲淵 正敏 (電気電子)	戸谷 次延 (電気電子)
高橋 俊和 (衛生工学、環境、総監)	時合 健生 (化学)
手塚 史展 (衛生工学)	堀川 滋雄 (建設、応用理学、総監)
土橋 佳代 (建設、総監・北陸)	森岡 敬士 (建設、総監・中四国)
委員補佐：川手 隆義 (機械)	委員補佐：近江 麻衣子 (環境)
委員補佐：富永 泰志 (電気電子)	
21 期 B 【2001 年(平成 13)7 月～2002 年(平成 14)6 月】	
北尾 由之 (情報工学)	新里 達也 (建設、農業、森林、環境、総監)
安藤 秀樹 (情報工学)	飯塚 洋人 (生物工学)
曲淵 正敏 (電気電子)	櫻井 重英 (建設)
高橋 俊和 (衛生工学、環境、総監)	堀川 滋雄 (建設、応用理学、総監)
手塚 史展 (衛生工学)	時合 健生 (化学)
土橋 佳代 (建設、総監・北陸)	森岡 敬士 (建設、総監・中四国)
戸谷 次延 (電気電子)	委員補佐：近江 麻衣子 (環境)
委員補佐：富永 泰志 (電気電子)	委員補佐：益子 理 (環境)
22 期 A 【2002 年(平成 14)7 月～2003 年(平成 15)6 月】	
時合 健生 (化学)	野村 貢 (建設、総監)
手塚 史展 (衛生工学)	桜井 裕一 (建設)
戸谷 次延 (電気電子)	笠井 睦 (建設、環境、総監)
正司 康雅 (機械、総監)	秋好 忍 (機械)
久保 康弘 (生物工学)	松浦 勝博 (電気電子、情報工学、総監)
堀川 滋雄 (建設、応用理学、総監)	佐藤 嘉憲 (応用理学)
土橋 佳代 (建設、総監・北陸)	森岡 敬士 (建設、総監・中四国)
委員補佐：佐々木 政幸 (建設)	委員補佐：益子 理 (環境)
委員補佐：伊藤 秀忠 (応用理学)	委員補佐：佐々木 るみゑ (生物工学)
委員補佐：山田 英樹 (建設)	委員補佐：掛川 昌俊 (衛生工学)
委員補佐：原田 篤史 (生物工学)	委員補佐：佐藤 大樹 (環境)
委員補佐：園家 研一郎 (航空・宇宙)	委員補佐：井上 譲 (建設)
委員補佐：近江 麻衣子 (環境)	

22期B【2003年(平成15)7月～2004年(平成16)6月】	
時合健生(化学)	野村 貢(建設、総監)
小松 秀次(建設)	松浦 勝博(電気電子、情報工学、総監)
秋好 忍(機械)	桜井 裕一(建設)
戸谷 次延(電気電子)	笠井 睦(建設、環境、総監)
正司 康雅(機械、総監)	木下 英也(経営工学)
久保 康弘(生物工学)	佐藤 嘉憲(応用理学)
平野 輝美(化学)	寺西 由夫(情報工学)
土橋 佳代(建設、総監・北陸)	森岡 敬士(建設、総監・中四国)
委員補佐：佐々木 政幸(建設)	委員補佐：益子 理(環境)
委員補佐：伊藤 秀忠(応用理学)	委員補佐：佐々木 るみゑ(生物工学)
委員補佐：山田 英樹(建設)	委員補佐：掛川 昌俊(衛生工学)
委員補佐：原田 篤史(生物工学)	委員補佐：佐藤 大樹(環境)
委員補佐：園家 研一郎(航空・宇宙)	委員補佐：井上 譲(建設)
委員補佐：新井 靖典(建設)	委員補佐：近江 麻衣子(環境)
委員補佐：斉藤 稔(機械)	委員補佐：田村 裕美(建設)
委員補佐：前田 香奈(生物工学)	委員補佐：前田 正吾(環境)
23期A【2004年(平成16)7月～2005年(平成17)6月】	
野村 貢(建設、総監)	小松 秀次(建設)
久保 康弘(生物工学)	佐藤 嘉憲(応用理学)
寺西 由夫(情報工学)	木下 英也(経営工学)
戸谷 次延(電気電子)	平野 輝美(化学)
松浦 勝博(電気電子、情報工学、総監)	青木 ゆかり(情報工学、総監)
井上 譲(建設)	清田 隆(建設)
黒崎 靖介(建設、環境、総監)	中村 弘(水産)
前田 秀一(化学、総監)	黒澤 之(建設、衛生工学、総監)
堀田 亨(応用理学、総監・北陸)	
森岡 敬士(建設、総監・中四国)	田辺 努(建設、総監・九州)
濱田 常雄(建設・中部)	藤川 洋一(建設、総監・東北)
委員補佐：近江 麻衣子(環境)	委員補佐：掛川 昌俊(衛生工学)
委員補佐：益子 理(環境)	委員補佐：柳澤 剛(応用理学)
委員補佐：原田 篤史(生物工学)	委員補佐：斉藤 稔(機械)
委員補佐：山田 英樹(建設)	委員補佐：前田 香奈(生物工学)
委員補佐：佐藤 大樹(環境)	委員補佐：田村 裕美(建設)
委員補佐：佐々木 政幸(建設)	委員補佐：佐々木 るみゑ(生物工学)
委員補佐：高田 準三(衛生工学)	委員補佐：前田 正吾(環境)
委員補佐：柳澤 剛(農業・応用理学)	委員補佐：阿部 真丈(金属)
委員補佐：高木 圭子(環境)	委員補佐：伊藤 紀夫(機械)
委員補佐：橋本 正明(環境)	委員補佐：今野 明(電気電子)
委員補佐：鎌田 憲司(化学、環境)	委員補佐：園家 研一郎(航空・宇宙)

1期A 【2005年(平成17)7月～2006年(平成18)6月】	
石井 一夫 (生物)	野村 貢 (建設、総監)
久保 康弘 (生物工学)	前田 秀一 (化学、総監)
木下 英也 (経営工学)	小松 秀次 (建設)
青木 ゆかり (情報工学、総監)	平野 輝美 (化学)
中村 弘 (水産)	黒澤 之 (建設、衛生工学、総監)
黒崎 靖介 (建設、環境、総監)	戸谷 次延 (電気電子)
井上 譲 (建設)	佐藤 嘉憲 (応用理学)
新井 靖典 (建設、総監)	椿谷 敏雄 (建設・北海道)
藤川 洋一 (建設、総監・東北)	堀田 亨 (応用理学、総監・北陸)
濱田 常雄 (建設・中部)	大氏 正嗣 (建設・近畿)
森岡 敬士 (建設、総監・中四国)	田辺 努 (建設、総監・九州)
委員補佐：山田 英樹 (建設)	委員補佐：掛川 昌俊 (衛生工学)
委員補佐：益子 理 (環境)	委員補佐：坪倉 慶彦 (建設)
委員補佐：原田 篤史 (生物工学)	委員補佐：斉藤 稔 (機械)
委員補佐：佐藤 大樹 (環境)	委員補佐：前田 香奈 (生物工学)
委員補佐：伊藤 秀忠 (応用理学)	委員補佐：田村 裕美 (建設)
委員補佐：柳澤 剛 (農業・応用理学)	委員補佐：阿部 真丈 (金属)
委員補佐：高木 圭子 (環境)	委員補佐：高田 準三 (衛生工学)
委員補佐：橋本 正明 (環境)	委員補佐：伊藤 紀夫 (機械)
委員補佐：鎌田 憲司 (化学、環境)	委員補佐：今野 明 (電気電子)
委員補佐：林 遵 (機械)	委員補佐：倉井 真理 (建設)
委員補佐：園家 研一郎 (航空・宇宙)	委員補佐：秋山 信芳 (上下水道)
委員補佐：仁田 晃人 (電気電子)	

1期B 【2006年(平成18)7月～2007年(平成19)6月】	
時合 健生 (化学)	野村 貢 (建設、総監)
久保 康弘 (生物工学)	小松 秀次 (建設)
前田 秀一 (化学、総監)	平野 輝美 (化学)
掛川 昌俊 (衛生工学)	青木 ゆかり (情報工学、総監)
黒崎 靖介 (建設、環境、総監)	中村 弘 (水産)
青木 卓也 (生物工学)	新井 靖典 (建設、総監)
井上 讓 (建設)	黒澤 之 (建設、衛生工学、総監)
椿谷敏雄 (建設・北海道)	藤川 洋一 (建設、総監・東北)
堀田 亨 (応用理学、総監・北陸)	濱田 常雄 (建設・中部)
大氏 正嗣 (建設・近畿)	松木 宏彰 (応用理学・中四国)
田辺 努 (建設、総監・九州)	
委員補佐：内藤 竜治 (電気電子)	委員補佐：倉井 真理 (建設)
委員補佐：柳澤 剛 (応用理学)	委員補佐：斉藤 稔 (機械)
委員補佐：山田 英樹 (建設)	委員補佐：田村 裕美 (建設)
委員補佐：伊藤 秀忠 (応用理学)	委員補佐：今野 明 (電気電子)
委員補佐：仁田 晃人 (電気電子)	委員補佐：長内 沙織 (化学)
委員補佐：園家 研一郎 (航空・宇宙)	委員補佐：井口 慎也 (情報工学)
委員補佐：石関 学 (電気電子)	委員補佐：鈴木 圭司 (建設)
委員補佐：鈴木 史人 (経営工学)	委員補佐：秋山 信芳 (上下水道)
2期A 【2007年(平成19)7月～2008年(平成20)6月】	
時合 健生 (化学)	前田 秀一 (化学、総監)
小松 秀次 (建設)	平野 輝美 (化学)
掛川 昌俊 (衛生工学、総監)	松本 正人 (建設)
五座 由洋 (上下水道、総監)	新井 靖典 (建設、総監)
内藤 竜治 (電気電子)	青木 卓也 (衛生工学、生物工学、総監)
倉井 真里 (建設)	井上 讓 (建設)
中嶋 幸宏 (情報工学)	椿谷 敏雄 (建設・北海道)
丹治 和博 (建設、総監・北海道)	佐々木 貢 (建設・東北)
堀田 亨 (応用理学、総監)	濱田 常雄 (建設・中部)
幡野 貴之 (建設・中部)	大氏 正嗣 (建設・近畿)
中田 圭吾 (上下水道・中四国)	山田 伸雄 (建設・九州)
担当委員：田村 裕美 (建設)	担当委員：石関 学 (電気電子)
担当委員：今野 明 (電気電子)	委員補佐：苫井 重和 (化学)
委員補佐：喜多 和 (機械)	委員補佐：長内 沙織 (化学)
委員補佐：鈴木 史人 (経営工学)	委員補佐：井口 慎也 (情報工学)
委員補佐：柳澤 剛 (応用理学)	委員補佐：鈴木 圭司 (建設)
委員補佐：町野 泰久 (化学)	委員補佐：西角井 造 (上下水道)
アドバイザー：吉田 均 (上下水道)	

2期B 【2008年(平成20)7月～】	
田村 裕美 (建設)	松本 正人 (建設)
中嶋 秀朗 (機械)	新井 靖典 (建設、総監)
中嶋 幸宏 (情報工学)	根本 英俊 (化学)
倉井 真里 (建設)	松嶋 健太 (環境、建設、衛生、総監)
井上 讓 (建設)	内藤 竜治 (電気電子)
五座 由洋 (上下水道・総監)	椿谷 敏雄 (建設・北海道)
丹治 和博 (建設、総監・北海道)	佐々木 貢 (建設・東北)
堀田 亨 (応用理学、総監・北陸)	濱田 常雄 (建設・中部)
幡野 貴之 (建設・中部)	大氏 正嗣 (建設・近畿)
中田 圭吾 (上下水道・中四国)	山田 伸雄 (建設・九州)
担当委員：石関 学 (電気電子)	担当委員：鈴木 史人 (経営工学)
担当委員：今野 明 (電気電子)	委員補佐：仁田 晃人 (電気電子)
委員補佐：斉藤 稔 (機械)	委員補佐：宮本 忠博 (経営工学)
委員補佐：渡邊 弘毅 (建設)	委員補佐：柳澤 剛 (農業・応用理学)
委員補佐：井口 慎也 (情報工学)	委員補佐：鈴木 圭司 (建設)
委員補佐：長内 沙織 (化学)	委員補佐：町野 素久 (化学)
委員補佐：西角井 造 (上下水道) :	委員補佐：渡邊 春菜 (化学)
委員補佐：中藤 智子 (化学)	委員補佐：奥田 雅大 (環境)
委員補佐：山地 真吾 (機械)	委員補佐：平原 賢志 (化学)

資料編

(年表)

■50周年記念誌編集委員

☆松嶋 健太（環境・建設・衛生工学・総合技術監理）

50年の活動を振り返って、青年技術士層の熱さに、驚く。読者にそれが伝われば、編集に携わったものとして幸いです。記念誌作成に関わったみなさん、ありがとうございました。

田村 裕美（建設部門）

難儀しましたが、楽しくやらせていただきました。この苦労も50年後には良い思い出!?

根本 英俊（化学部門）

今回記念誌の編集に関わり、日本技術士会及び青技懇、青年委員会の歴史に触れさせて頂きました。先輩方の偉大な足跡を知り、伝統の重みと継承の重要性を感じました。このような機会を与えて頂いたことに感謝いたします。

宮本 忠博（経営工学部門）

50周年の節目に気がつけば、実行委員として関わっていた。想定外の速さで私から時間を奪い、1月が終わりを告げた。その代り損得から疎遠となり、コウノトリが個性豊かな仲間を運んできたのは良かった。

山地 真吾（修習技術者/機械部門）

タカを括って安請け合いたした年表担当。そこに待ち受けていたのは膨大な資料。ファイル破損も相まって激闘ではありましたが、同時に50年の歩みを追いかける作業は楽しくもありました。文章から溢れる熱気を少しでも伝えていく…オレも「伝承」に加われたかな

中藤 智子（修習技術者/化学部門）

この度、50周年という大イベントの記念誌作成に携わることができ、大変嬉しく、良い経験ができたことを誇りに思います。記念誌作成を通して、自分のさらなるスキルアップの目標ができました。

表紙イラスト 井口 慎也

資料提供 黒澤 豊樹

編集協力 二村 有貴子

青年技術士交流実行委員会五十周年記念誌

2009年（平成21年）1月

（社）日本技術士会 青年技術士交流実行委員会

青年技術士懇談会・青年技術士交流

年号	歴代代表幹事 歴代委員長	青年技術士懇談会・青年技術士交流実行委員会 主な動き	
		トピック	活動内容
1960 昭和35年	初代 代表幹事 石川 源光 (電気)	青年商工会議所(ＪＣ)メンバーとの会合	定例会 1 2
1961 昭和36年		青年技術者の海外進出について議論	定例会 1 2
1962 昭和37年	第2代 代表幹事 宮川 有郎 (電気)		講演・勉強会 1
1963 昭和38年			定例会 1 1
1964 昭和39年	第3代 代表幹事 弘田 幸弘 (電気)	湯河原観光荘にて初めて東京以外での例会を開催 第1回関西青年技術士懇談会 開催 近畿支部 設立	交流会 1 定例会 1 1
1965 昭和40年			定例会 1 2
1966 昭和41年	第4代 代表幹事 柳川 達吉 (生産管理)		定例会 1 2
1967 昭和42年			講演・勉強会 1 交流会 2
1968 昭和43年	第5代 代表幹事 廣瀬 正尚 (科学)		定例会 9 講演・勉強会 1
1969 昭和44年		近畿支部主催船上レクチャー 東京本部、近畿支部交歓パーティー(横浜) 黒部ダム、富山地区化学工場見学	講演・勉強会 4 交流会 2 見学会 1 定例会 5
1970 昭和45年	第6代 代表幹事 黒澤 豊樹 (電気)	東京青年会議所(東京ＪＣ)との交流スタート	講演・勉強会 2
1971 昭和46年		ほてい缶詰工場見学会&富士五湖ドライブ旅行	定例会 1 0 講演・勉強会 3 交流会 3 見学会 1 定例会 5
1972 昭和47年	第7代 代表幹事 新井 澄夫 (機械)	航空宇宙技術研究所見学会 優秀科学技術映画鑑賞会 矢崎総業沼津工場見学会&懇親1泊旅行	講演・勉強会 1 交流会 2 見学会 2 定例会 7
1973 昭和48年		東京電力鹿島、表面化工研、原研見学&懇親旅行	講演・勉強会 2 交流会 1 見学会 1 定例会 8
1974 昭和49年	第8代 代表幹事 伊豫部将三 (機械)		講演・勉強会 3
1975 昭和50年		栃木県内工場見学会&川俣温泉懇親1泊旅行 デザイン・エンジニアリング・ショウ 75参加	定例会 9 講演・勉強会 5 交流会 1 見学会 2 定例会 4
1976 昭和51年	第9代 代表幹事 鈴木 将成 (電気)	青年技術士懇談会規約制定 日精樹脂工業視察&別所温泉懇親1泊旅行	講演・勉強会 4 交流会 3 見学会 1 定例会 4
1977 昭和52年		デザイン・エンジニアリング・ショウ 77参加 長野県精密工場試験場、江黒鉄工見学&小洪温泉1泊研修会	講演・勉強会 3 交流会 2
			定例会 7

実行委員会 五十年の歩み - 1 -

年号	(社)日本技術士会 主な動き	主な出来事	
		国内の出来事	世界の出来事
1960 昭和35年	技術相談室 開設 欧州へ調査団を派遣 技術士業務倫理要綱 制定 船舶部会、繊維部会 設置	新日米安保条約・行政協定調印 三井三池争議、無期限ストに突入 三陸地方にチリ地震の大津波被害	トルコで陸軍のクーデター 石油産出5カ国がOPEC結成 20カ国、経済協力開発機構条約調印
1961 昭和36年	創立10周年記念式典 挙行 米国へ調査団を派遣 農業部会 設置	防衛2法改正案成立 農業基本法公布	米がキューバと断交 アフリカ8カ国首脳会議 東独が東西ベルリンの境界に壁を構築
1962 昭和37年	欧州における空気調和、衛生工学に関する技術調査団を派遣 応用理学部会 設置	原子力研究所の国産1号炉が臨海に到達 日中総合貿易覚書調印	ビルマでネウ・ウー指揮の軍部クーデター成功 仏とアルジェリア臨時政府が停戦協定 キューバ危機
1963 昭和38年	技術士本試験問題集 創刊 ハワイにおけるP.E試験制度調査団を派遣	松川事件で最高裁が上告棄却：被告全員無罪 三井三池炭鉱でガス爆発事故 日米間テレビ宇宙中継実験成功	アフリカ統一機構憲章調印：30カ国調印 ケネディ大統領暗殺
1964 昭和39年	アジア西大西洋建設業協会国際大会第5回(ソウル)へ代表を派遣	国際通貨基金8条国に移行 東海道新幹線開業 第18回オリンピック東京開催	仏が中国と国交樹立 南ベトナムでクーデター 中国で初の核実験
1965 昭和40年	中・四国支部、九州支部を設置 玉置正治氏(第4代会長)藍授褒章受章	原水爆禁止国民会議結成 日韓基本条約等調印 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞	米軍機北ベトナム爆撃：北爆開始 アルジェリアでクーデター カシミールで衝突：印パ戦争
1966 昭和41年	創立15周年記念式典 挙行 北海道支部 設置 水産部会 設置 海外向報酬基準(英文)制定 部会幹事懇談会を設け、第1回を開催 会報「JCEA速報」創刊	全日空機が羽田沖で墜落 英BOAC機が富士山付近で墜落	インドネシアでスカルノがスルト陸相に全権委譲 中国、文化大革命と紅衛兵運動の嵐
1967 昭和42年	岩波書店・有斐閣両社長に対し、六法全書への「技術法」の登録を依頼 農業土木会館内に事務所を移転	西日本に集中豪雨 佐藤首相東南アジア歴訪 全学連と警官隊衝突 吉田元首相死亡で国葬	アラブ諸国・イスラエル第3次中東戦争 欧州共同体発足 米デトロイトで黒人大暴動 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成
1968 昭和43年	会長に田中宏氏就任 高田事務局長、常任理事に選任 会報名「日本技術士会・会報JCEA」に主婦連との座談会 開催	文化庁設置 小笠原諸島が日本復帰 川端康成ノーベル文学賞受賞 東京府中市で現金輸送車3億円強奪事件	アラブ石油輸出国機構結成 米黒人運動指導者キング牧師暗殺
1969 昭和44年	FIDIC会長 Mr. William W. Moore 来日 韓国技術士会代表 金慶植氏 来日 北陸支部 設置 技術士法改正研究委員会 設置	機動隊、東大安田講堂の封鎖解除 東名高速道路開通：名神と東京～西宮全通 佐藤・コソフ共同声明：沖縄施政権変換確認	ソ連宇宙船ユーズ4号・5号がドッキング成功 パレスチナ解放機構議長にアラファト選出 米宇宙船アポロ11号月面着陸に成功 北アフリカで青年将校のクーデター
1970 昭和45年	FIDIC年会 Mr. William W. Moore 来日 韓国技術士会代表 金慶植氏 来日 北陸支部 設置 技術士法改正研究委員会 設置	核不拡散条約調印 大阪で日本万国博覧会開催 日米安保条約自動延長 沖縄で国政参加初選挙	クワンソンの戦略兵器制御交渉開始 米上院で大気汚染防止法可決 西独・ポーランド 国交正常化条約締結
1971 昭和46年	創立20周年式典 挙行 FIDIC年次大会へ代表者を派遣 日韓技術士会議(ソウル) 第1回開催 名誉会員制 制定	財形貯蓄制度親切 沖縄返還協定調印 岩手県雫石町で自衛隊機と全日空機衝突 円切り上げ幅公示(1ドル=308円)	パナマでシムロンが独立 中国で林彪がクーデターに失敗 第3次印パ戦争
1972 昭和47年	FIDIC事務局長 来日 台湾 China Production Center との交流会議 へ代表団を派遣	日米繊維協定調印 グアム島で横井庄一元軍曹を保護 札幌オリンピック(冬季)開催 田中通産相「日本列島改造論」を発表	ニクソン訪中 米中共同声明(上海コミュニケ)発表 ニクソン訪ソ 北爆再開
1973 昭和48年	FIDIC会長・事務総長、ユージ・ラント C・E協会 会長と、要人の来日相次ぐ 第3回日韓技術士会議(ソウル)開催 東北支部 設置	円、再び変動相場制へ移行 中東戦争で第1次石油危機オイルショック 江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞 石油問題で三木副首相中東8カ国歴訪	英・アイルランド・デンマークがECに加入 パリでベトナム和平協定調印 米軍南ベトナム撤退完了 ソ連ブレジネフ書記長訪米
1974 昭和49年	日本コンサルティングエンジニア協会設立総会 (社)日本技術士会全国大会 第1回開催 会報名「技術士」に変更 FIDIC総会でエンジニア協会の加盟を承認	日韓大陸棚協定調印 ルバング島で小野田寛郎少尉を救出 丸の内三菱重工業本社前時限爆弾予告 佐藤栄作前首相ノーベル平和賞受賞	コソフ、ウォークアウト事件で大統領辞任 ソウルで朴大統領狙撃事件 エチオピアで軍事クーデター
1975 昭和50年	日本コンサルティングエンジニア協会設立協会 FIDIC加盟記念大会 テクノロジーズ・アソシエイト(T.A.)委員会 設置	山陽新幹線開通(東京～博多) 沖縄国際海洋博覧会開催 天皇・皇后訪米	アポロ11号の米宇宙船がドッキング成功 パリ郊外ラヴレールで第1回サミット
1976 昭和51年	創立25周年記念式典 挙行 札幌上水道、マイ島下水処理場視察団を派遣	東京地検が「オキド」事件で田中前首相逮捕 ソ連戦闘機ミグ25が函館空港強行着陸	中国天安門事件 南北ベトナム統一選挙 毛沢東主席死去
1977 昭和52年	技術士賠償責任保険制度 新設 技術開示活動委員会、地震対策委員会 設置 東南アジア水道関連施設等視察団を派遣	原水爆禁止統一世界大会国際会議広島開催 王貞治756本塁打の世界記録 ボンベイで日本赤軍日航機乗っ取り	中国文化大革命終結宣言 エジプトがアラブ5カ国と断交

青年技術士懇談会・青年技術士交流

年号	歴代代表幹事 歴代委員長	青年技術士懇談会・青年技術士交流実行委員会 主な動き	
		トピック	活動内容
1978 昭和53年	第10代 代表幹事 深野 宏之 (生産管理)	青年技術士懇談会名簿発行	講演・勉強会 3 交流会 1 定例会 8
1979 昭和54年		講演・勉強会 2 交流会 1 定例会 9	
1980 昭和55年	第11代 代表幹事 中村 喜平 (生産管理)		講演・勉強会 2 交流会 1 定例会 9
1981 昭和56年		ポートピア見学&有馬温泉一泊研修旅行	講演・勉強会 3 見学会 1 交流会 1 定例会 7
1982 昭和57年	第12代 代表幹事 大塚 実 (機械)	技術士向けマイコン入門講習 初開催 技術士養成講座スクーリング 開催	講演・勉強会 6 交流会 2 定例会 4
1983 昭和58年		全技術士を対象とした「技術講演会」開催	講演・勉強会 8 交流会 2 定例会 2
1984 昭和59年	第13代 代表幹事 藤森 正法 (水道)	東京青年会議所(東京JC)との懇談会開催	講演・勉強会 7 交流会 3 定例会 2
1985 昭和60年		青年技術士懇談会規約 改正 技術士会事務局との懇談会を実施し、意見交換 中部青年技術士会 結成&結成記念見学会(中部電力浜岡原発)	講演・勉強会 8 交流会 2 定例会 2
1986 昭和61年	第14代 代表幹事 北川 善久 (水道)		講演・勉強会 6 見学会 2 交流会 2 定例会 2
1987 昭和62年			講演・勉強会 7 見学会 1 交流会 3 定例会 1
1988 昭和63年	第15代 代表幹事 和久 昭正 (建設)	NHK放送センター見学	講演・勉強会 5 見学会 1 交流会 2 定例会 2
1989 平成元年		ビール工場見学&納涼ビール会	講演・勉強会 9 見学会 1 交流会 1 定例会 1
1990 平成2年	第16代 代表幹事 水谷 敏彦 (建設)	23区内唯一の造り酒屋工場見学(小山酒造) プレゼンテーション企画「ノウフウ」初開催	講演・勉強会 9 見学会 1 交流会 2
1991 平成3年		首都高東京港連絡橋ケーブル工事 見学会 (近畿支部・青年技術士懇談会 発足)	講演・勉強会 5 見学会 1 交流会 2 定例会 3
1992 平成4年	第17代 代表幹事 岡 孝夫 (建設、情報)	宮ヶ瀬ダム見学会「巨大なダム建設現場を見よう」 「コーヒーブレイク - 情報発信の場 - 」初開催 NIFTY-Serve青技懇ホームパーティ 開設 技術士試験に関する本の執筆	講演・勉強会 8 見学会 1 交流会 2 定例会 1
1993 平成5年		青年技術士公開シンポジウム 初開催 日本出版販売(株)王子流通センター見学会「知識の源は今」 本部 - 近畿でのTV会議 初開催 幹事合宿(葉山・伊東)	講演・勉強会 2 見学会 1 交流会 4 定例会 4
1994 平成6年	第18代 代表幹事 福田 遵 (電気・電子)	川崎市入江崎総合スラッジセンター見学会	講演・勉強会 6 見学会 1 交流会 3 定例会 2
1995 平成7年		帷子川分水路常盤台第3工区見学会 東芝(株)府中工場見学会 第2回青年技術士公開シンポジウム 開催	講演・勉強会 4 見学会 2 交流会 4 定例会 1

実行委員会 五十年の歩み - 2 -

年号	(社)日本技術士会 主な動き	主な出来事	
		国内の出来事	世界の出来事
1978 昭和53年	日本技術士会に対する委託調査研究拡大 事務局が秀和第2虎ノ門ビル内に移転 技術士信用保証制度の新設について科技厅長官へ要望書提出	敦賀で国産発電炉<ふげん>が臨海到達 植村直己が犬ぞり単独行で北極点到達 新東京国際空港(成田)正式に開港 北京で日中平和友好条約調印	英試験管ベイビー成功 ローマ教皇に<ポ-ランド>出身ヨハネ・パウロ2世 ベトナム軍、カンボジア侵攻
1979 昭和54年	月間「技術士」がB5版でスタート 中国の事情視察団を派遣	第2次石油危機 東京サミット開催 東名・日本坂トンネル事故	米中国交成立 英総選挙でサッチャー女史首相就任 韓国朴大統領暗殺 ソ連アフガニスタン侵攻
1980 昭和55年	情報処理部会 設置	電力・ガス料金大幅値上げ 大平首相急死	韓国全土に戒厳令(光州事件) 仏で中性子爆弾の実験を発表 ミクハシバツク:米・中・日ボイコット
1981 昭和56年	創立30周年式典 挙行 「日本技術士会30年史」発刊	ローマ法王パウロ2世来日 赤字ローカル線77路線廃止決定 福井謙一ノーベル化学賞受賞	ギリシャがEC加盟 イソの首相府爆弾テロ、大統領・首相爆死 <ポ-ランド>で戒厳令:ワレサ軟禁
1982 昭和57年	生産管理部門を経営工学部門に改組 専門科目を合理化縮小(86/72)	赤坂ホテルニュージャパン火災 中国が教科書検定問題で正式抗議	アフパフ軍、英とフォークランド 紛争 イスラエルがシナイ半島をエジプトに全面返還 アラブ首脳会議で「フェス憲章」採択
1983 昭和58年	技術士法 改正(公布) 事務局が虎ノ門第15森ビル内に移転 「日本技術士会30年史追補」発刊	中曽根首相が訪韓、初の首相公式訪問 日本海中部地震 戸塚ヨットスクール事件	ソ連機が領空侵犯の大韓航空機撃墜
1984 昭和59年	指定試験および登録機関の認可 中小企業問題研究懇談会 開催	グリコ・森永事件 新日本銀行券(1万円,5千円,千円)発行 日本初の衛星放送始まる	サウディアラビアツク:ソ連15カ国不参加 印ガンジー首相暗殺
1985 昭和60年	技術士第一次試験(技術士補)第1回実施	両国国技館完成 科学万博つくば'85開催 NTT、日本たばこ産業発足 日航機群馬県御巣鷹山に墜落	インド各地で同時多発爆弾テロ ヨルダンにドクトル火山噴火
1986 昭和61年	創立35周年式典 挙行 「日本技術士会35年史」を「技術士」臨時増刊号として発刊	東京サミット開催 三原山大噴火 国鉄分割・民営化関連8法成立	米スペースシャトル・チャレンジャー号爆発 ソ連チェルノブイリ原子力発電所で爆発事故
1987 昭和62年	技術士補研修セミナー 開催	国鉄分割・民営化・JRグループ発足 利根川進ノーベル生理学・医学賞受賞	ニューヨーク株式市場大暴落(ブラックマンデー) ソ連のペレストロイカ(改革) 中米紛争で「グアテマラ和平合意」
1988 昭和63年	技術士法施行規則の一部改正 生物部門 新設 航空機部門が航空・宇宙部門、電気部門が電気・電子部門、鉱業部門を資源工学部門に改組	世界最長の青函トンネルが営業運転開始 本州四国連絡橋瀬戸大橋開業 東京湾で潜水艦なだしおと釣り船が衝突	ゴルバチョフ、新ベオグラード宣言 レーガン米大統領訪ソ イラン・イラク戦争8年ぶり停戦
1989 平成元年		昭和天皇崩御、皇太子明仁親王即位 消費税実施 岩戸景気に迫る好景気	ソウルオリンピック開催 ベルリンの壁取り壊し始まる ミクハシバツクで米ソ首脳会談:東西冷戦終結宣言
1990 平成2年	機械、電気・電子、化学、建設、農業の5部会長が部会長会議設置の提案 生物工学会 設置	韓国盧大統領来日 宇宙飛行士秋山豊寛、ソ連のソユーズ 打上げ	南アフリカ指導者マンデラ、28年ぶりに釈放 ソ連初大統領にゴルバチョフ就任 ナミビア独立 東西ドイツ統一(ドイツ連邦共和国成立)
1991 平成3年	部会長会議 設置 創立40周年式典 挙行 「日本技術士会40年史」を「技術士」臨時増刊号として発刊	ソ連コシチョフ大統領来日 雲仙・普賢岳で大規模火砕流発生	多国籍軍の湾岸空爆開始:湾岸戦争突入 南アでアパルトヘイト廃止 ソ連消滅
1992 平成4年		暴力団対策法施行 PKO法案成立 毛利衛、スペースシャトルエンデバー打上げ	リオデジャネイロで地球環境サミット:財宣言採択 韓国・中国が国交樹立
1993 平成5年		日本プロサッカー開幕 皇太子「結婚の儀」 北海道南西沖地震奥尻島大被害 世界遺産に屋久島、白神山地、姫路城	中国、江沢民総書記を国家主席に選出
1994 平成6年	技術士法 改正 事務局が田中山ビル内に移転 環境部会 設置	松本市で有毒ガス事件:松本川ノ事件 女性宇宙飛行士向井千秋、ヨルダン打上げ 関西国際空港開港 大江健三郎ノーベル文学賞受賞	北米自由貿易協定発足 英仏海峡トンネル開通 南ア、マンデラ大統領就任
1995 平成7年	韓国技術士会30周年	阪神・淡路大震災発生 東京都心部で地下鉄川ノ事件 PHS登場	GATT0に関わる世界貿易機構発足 米・ベトナム国交樹立 イスラエル、ラビン首相暗殺 ボスニア紛争関連3当事国が和平協定調印

参考:日本技術士会創立50周年記念誌年表

青年技術士懇談会・青年技術士交流

年号	歴代代表幹事 歴代委員長	青年技術士懇談会・青年技術士交流実行委員会 主な動き	
		トピック	活動内容
1996 平成8年	第19代 代表幹事 渡辺 和樹 (航空・宇宙)	R C横浜ビル建設現場見学会 東京ガス(株)本社「マッピングシステム」見学会 東急建設(株)相模原地下実験室見学会 新日本製鐵(株)総合技術センター見学会	講演・勉強会 2 見学会 4 交流会 5 定例会 1
1997 平成9年		青技懇ホームページ開設 新日本製鐵(株)君津製鉄所見学会 出光興産(株)石炭研究所、営業研究所見学会 N A S D A 筑波宇宙センター見学会	講演・勉強会 4 見学会 3 交流会 6 定例会 1
1998 平成10年	第20代 代表幹事 石井 聡 (電気・電子)	北東3支部(東北・北陸・北海道)技術士交流研修会 開催 サントリー(株)武蔵野ビール工場見学会 オリンパス光学工業(株)八王子技術開発センター見学会 東京都環境科学研究所見学会	講演・勉強会 3 見学会 3 交流会 6 定例会 1
1999 平成11年		(株)キャドセンター見学会(V R 技術、適用事例紹介) 運輸省港湾技術研究所見学会 通産省工業技術院資源環境技術総合研究所見学会 青年技術士懇談会規約改正	講演・勉強会 5 見学会 3 交流会 3 定例会 1
2000 平成12年	第21代 委員長 北尾 由之 (情報工学)	横浜市環境事務局金沢清掃工場新築現場見学会 各支部(中部・近畿)合同例会を名古屋で開催 日本IBM(株)大和事業所見学会&講演会 環境市民団体「霞ヶ浦市民協会」との交流&「ヒコク」見学	講演・勉強会 5 見学会 3 交流会 3 定例会 1
2001 平成13年		横浜市清掃工場(リサイクル施設&余熱施設)見学会 神原秀記氏講演会	講演・勉強会 9 見学会 1 交流会 2 定例会 1
2002 平成14年	第22代 委員長 時合 健生 (化学)	国土交通省国土地理院「地図と測量の科学館」見学会 青年技術士懇談会公開シンポジウム 開催	講演・勉強会 6 見学会 1 交流会 3 定例会 1
2003 平成15年		見学会(雪印乳業(株)横浜フーズ工場、海洋科学技術センター) 地質標本館ファミリー見学会 CAFEO参加、中国山峡ダム合同視察 青年技術士懇談会特別公開シンポジウム 開催	講演・勉強会 4 見学会 3 交流会 3 定例会 1
2004 平成16年	第23代委員長 野村 貢 (建設)	実行委員会移行準備 YEAFFEO参加 日本科学未来館ファミリー見学会、宇宙航空研究開発機構見学会	講演・勉強会 6 見学会 2 交流会 1 定例会 6
2005 平成17年	初代委員長 石井 一夫 (生物)	マレーシア来日交流、YEAFFEO参加、日韓会議 全国大会青年分科会、支部交流会議 造幣局見学会	講演・勉強会 3 見学会 1 交流会 1 定例会 2
2006 平成18年		第2代委員長 野村 貢	ロゴマーク選定 豪州来日交流、YEAFFEO参加、日韓会議 全国大会青年分科会、支部交流会議 見学会(テックセンター、八景島シーパラダイス、アサヒビール茨城工場)
2007 平成19年	第3代委員長 時合 健生	豪州二カ国間交流、香港来日交流、YEAFFEO参加、日韓会議 第1回フットサル交流会 全国大会青年分科会、支部交流会議	講演・勉強会 10 見学会 0 交流会 3 定例会 12
2008 平成20年	第4代 委員長 田村 裕美 (建設)	50周年記念イベント開催、50周年記念誌発行 ファミリー見学会(新宿御苑) 豪州来日交流、香港二カ国間交流、日韓会議 全国大会第4分科会(青年分科会)、支部交流会議	講演・勉強会 5 見学会 1 交流会 4 定例会 7
2009 平成21年			

2009年1月
までの活動

実行委員会 五十年の歩み - 3 -

年号	(社)日本技術士会 主な動き	主な出来事	
		国内の出来事	世界の出来事
1996 平成8年	創立45周年式典 挙行 「日本技術士会45年史」を「技術士」臨時増刊号として発刊	北海道豊浜17号で崩落事故 IIX 薬害事件で安部英前帝京大副学長逮捕	台湾発の総統直接選挙で李登輝圧勝 狂牛病問題でECが英国産牛を全面禁輸 ベルリン-日本人大使公邸をゲリラが襲撃
1997 平成9年		隠岐島沖で露丸丸沈没、重油流出 東海村の動燃再処理工場で爆発事故 消費税5%に 山一証券破綻	香港返還：155年の英統治終了 アムステルダム条約調印 英・クローン羊に成功
1998 平成10年	日本技術士会ホームページ 開設 ミャンマー経済視察団を派遣	冬季オリンピック長野開催 明石海峡で大橋開通 中国江沢民主席来日	仏が高速増殖炉の廃炉決定 英国・北アイルランド 紛争の和平合意 インド地下核実験を発表
1999 平成11年	技術士倫理要綱 改訂 APECITJ コアエンジニアリング 委員会 設置	東海村、国内初の臨海事故 銀行の大型再編相次ぐ 第一勧業・富士・日本興行銀行が統合	欧州単一通貨(ユーロ)参加11カ国で発足 トルコ、台湾で大地震 東ティモール、住民投票による独立選択
2000 平成12年	月刊「技術士」 A4版として再スタート 技術士法 改正(公布) APECEエンジニア審査登録開始	三宅島噴火で全島民避難 白川英樹ノーベル化学賞受賞 沖縄サミット開催 北海道有珠山噴火	中東和平交渉決裂 バレンツ海で露原潜沈没 分断後初の南北朝鮮首脳会談実現
2001 平成13年	第28回技術士全国大会開催(東京) 日本技術士会50周年 技術士第二次試験総合監理部門新設 CPDの実施に係る学協会との相互連携覚書締結	第1次小泉内閣発足 IIX沖、米原子力潜水艦と実習船が衝突 大阪USJ、東京テニール開業 野依良治ノーベル化学賞受賞	米ジョージ・ブッシュ大統領就任 米同時多発テロ 米炭疽菌事件 米・英、アフガニスタンへの空爆開始
2002 平成14年	第29回技術士全国大会開催(岐阜市) 技術士CPDタスクフォース特別委員会設置	サッカーワールドカップ 日韓共同開催 日朝首脳会議 小柴昌俊ノーベル物理学賞受賞 田中耕一ノーベル化学賞受賞	中国警察、日本公会館内で拘束 バリ島で爆弾テロ 北朝鮮核開発継続認める
2003 平成15年	第30回技術士全国大会開催(大阪市) 技術士試験検討特別委員会設置	個人情報保護法 高松自動車道全線開通 日本郵政公社発足 東海道新幹線、品川駅開業	米軍がイラクに侵攻 新型肺炎(SARS)集団発生 中国初の友人宇宙船打ち上げ 米スペースシャトルコロンビア空中分解
2004 平成16年	第31回技術士全国大会開催(札幌市) 技術士ビジョン21策定 技術士第二次試験原子力・放射線部門新設	自衛隊イラク派遣 新潟中越沖地震 各地で集中豪雨による被害 新1万円、5千円、千円札発行	アテネオリンピック開催 北朝鮮が共和国で核実験独立を求めて学校占拠 スマトラ島沖地震
2005 平成17年	第32回技術士全国大会開催(福岡市) 原子力・放射線部会設立 技術部門及び部会検討に関わる特別委員会設置 会員拡大・活性化特別委員会設置	日本国際博覧会(愛地球博) JR福知山線脱線事故 中部国際空港開港、つくばエクスプレス開通 耐震強度偽装問題	米・大型リケントカトリーナ大被害 ロンドンで同時爆破事件 パキスタン北東部で大地震 仏各地で暴動発生
2006 平成18年	第33回技術士全国大会開催(東京) 防災特別実行委員会発足 EMFモニタリング委員会発足	41年ぶり皇室に男子誕生 イラクから自衛隊撤収 阿部内閣発足 電気用品安全法(PSE法)施行	トリノオリンピック(冬季)開催 インド・ムンバイで列車同時テロ ジャワ島大地震 サダム・フセイン元大統領処刑
2007 平成19年	第34回技術士全国大会開催(福井市) 技術士法制定50年 技術士プロフェッション宣言、ロゴマーク変更 科学技術基本計画支援実行委員会発足	郵政民営化スタート 食品に関する偽装が多数発覚 緊急地震速報システム運用開始 安部首相突然の退陣	米バージニア工科大学銃乱射事件 原油価格大高騰 米ミネアポリスで高速道路の橋が崩落 EU27カ国体制始動
2008 平成20年	第35回技術士全国大会開催(松江市) EMF審査登録スタート 月刊「技術士」通算500号記念誌発行	中国製冷凍ギョーザ中毒事件 下村脩ノーベル化学賞受賞 南部陽一郎、小林誠、益川敏英 ノーベル物理学賞受賞	中国四川大地震 アメリカ大統領選挙 (初の黒人大統領誕生) リーマン・ブラザーズ破綻
2009 平成21年			

参考「日本技術士会創立50周年記念誌年表」

青年技術士懇談会・青年技術士交流実行委員会 代表幹事及び委員長

期		年		代表者名	備考
		1951	S26		日本技術士会誕生
		1952	S27		
		1953	S28		
		1954	S29		
		1955	S30		
		1956	S31		
		1957	S32		
		1958	S33		
		1959	S34		青年技術士第1回会合
1	1A	1960	S35	石川源光(電気)	青年技術士懇談会
	1B	1961	S36		
2	2A	1962	S37	宮川育郎(電気)	
	2B	1963	S38		
3	3A	1964	S39	弘田幸弘(電気)	
	3B	1965	S40		
4	4A	1966	S41	柳川達吉(生産管理)	
	4B	1967	S42		
5	5A	1968	S43	廣瀬正尚(化学)	
	5B	1969	S44		
6	6A	1970	S45	黒澤豊樹(電気)	
	6B	1971	S46		
7	7A	1972	S47	新井澄夫(機械)	
	7B	1973	S48		
8	8A	1974	S49	伊豫部将三(機械)	
	8B	1975	S50		
9	9A	1976	S51	鈴木将成(電気)	
	9B	1977	S52		
10	10A	1978	S53	深野宏之(生産管理)	
	10B	1979	S54		
11	11A	1980	S55	中村喜平(生産管理)	
	11B	1981	S56		
12	12A	1982	S57	大塚実(機械)	
	12B	1983	S58		
13	13A	1984	S59	藤森正法(水道)	
	13B	1985	S60		
14	14A	1986	S61	北川善久(水道)	
	14B	1987	S62		
15	15A	1988	S63	和久昭正(建設)	
	15B	1989	S64/H1		
16	16A	1990	H2	水谷 敏彦(建設)	
	16B	1991	H3		
17	17A	1992	H4	岡孝夫(建設、情報)	
	17B	1993	H5		
18	18A	1994	H6	福田 遵(電気電子)	
	18B	1995	H7		
19	19A	1996	H8	渡辺和樹(航空・宇宙)	
	19B	1997	H9		
20	20A	1998	H10	石井聡(電気電子)	
	20B	1999	H11		
21	21A	2000	H12	北尾由之(情報工学)	
	21B	2001	H13		
22	22A	2002	H14	時合健生(化学)	
	22B	2003	H15		
23	23A	2004	H16	野村貢(建設)	
1(24)	1A	2005	H17	石井一夫(生物) / 野村貢(建設)	
	1B	2006	H18	野村貢(建設)	
2(25)	2A	2007	H19	時合健生(化学)	
	2B	2008	H20	田村裕美(建設)	

< 敬称略 >